

国立市

**子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査報告書**

平成 26 年 3 月

東京都 国立市

目 次

第1章 調査実施の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の設計	3
(1) 調査票の種類と調査対象者等	3
3 調査の実施方法と配布・回収状況	4
(1) 調査時期と調査方法	4
(2) 調査の配布・回収状況	4
4 報告書の見方について	5
(1) 年齢・学年の定義	5
(2) 電算処理の注意点	5
(3) グラフの見方について	5
5 調査結果からみた国立市の課題	6
6 調査対象者の属性・家族状況	8
(1) 就学前児童の属性	8
(2) 小学校児童の属性	8
(3) 居住地域の状況	9
(4) 調査回答者の状況と配偶者有無	9
第2章 子育て家庭を取り巻く環境	13
1 子育ての環境について	13
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況	13
(2) 子育てに関する相談者の状況	17
2 保育者の就労状況	18
(1) 母親の就労状況	18
(2) 父親の就労状況	24
第3章 子育て支援サービス等の現状と今後の利用希望等	31
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望	31
(1) 平日の定期的な教育・保育事業（全体）	31
(2) 認可保育所	35
(3) 定期的な教育・保育の利用理由と未利用の理由	38
(4) 休日の教育・保育事業の利用意向	39
(5) 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	44
2 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向	48
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について	48
(2) 不定期の一時保育の利用について	50
(3) 宿泊を伴う一時保育の利用について	55
3 放課後の過ごし方について	57
(1) 平日の放課後の過ごし方について	57
(2) 土曜・休日の放課後児童クラブ利用について	62
(3) 長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用について	65
4 子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について	67

第4章 育児休業制度の利用状況等	71
1 育児休業制度の利用状況.....	71
2 地域の子育て支援の環境や支援への満足度.....	78
第5章 小・中学生の調査結果	81
1 基本属性.....	81
(1) 小学5年生の属性.....	81
(2) 中学2年生の属性.....	82
2 普段の生活について.....	85
3 心配や悩みについて.....	98
4 地域のことについて.....	103
5 子どもの権利について.....	117
6 結婚・子育てのことについて.....	119
7 あなたの考えについて.....	121
第6章 施設ヒアリング調査結果.....	143
1 調査の目的.....	143
2 調査の設計.....	143
(1) 調査の対象及び内容.....	143
(2) 調査の実施内容.....	144
3 主な内容.....	144
(1) 子どもや家庭など利用者の状況.....	144
(2) 自施設・機関における支援の現状.....	146
(3) 必要とされる支援の提案.....	149
資 料 編.....	155
1 「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査票」の見本.....	155

第 1 章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

平成24年8月に、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社会の実現に寄与することを目的とする「子ども・子育て支援法」が成立し、新しい「子ども・子育て支援制度」が施行されます。

新しい制度では、これまで以上に安心して子どもを生み育てられる環境を整備していくために「質の高い幼児期の学校教育・保育の一体的な提供」や「地域における子育て支援の充実」「保育の量的拡大」を図る必要があることから、幼児期の学校教育や保育、子育て支援などに関するニーズを把握し、適切なサービスの確保を行うことを目的とした事業計画の策定が自治体に義務化されました。

そのため、国立市においても事業計画の策定に必要な情報を得るため、子育て家庭ニーズの動向分析等を行い、市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

2 調査の設計

(1) 調査票の種類と調査対象者等

調査対象者別の調査内容は、以下のとおりです。

図表 1.1 調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援ニーズ調査（小学校就学前児童向け）」	
調査対象者	就学前児童を持つ保護者
調査件数	1,800件
調査内容	家族状況、就労状況、日常的な幼稚園・保育施設等の利用、育児休業の取得状況等
②調査票「子ども・子育て支援ニーズ調査（小学生向け）」	
調査対象者	小学校低学年（1年生～3年生）児童を持つ保護者
調査件数	916件
調査内容	家族状況、就労状況、放課後等の過ごし方、等
③調査票「小学生の生活に関する調査（小学5年生）」	
調査対象者	小学5年生
調査件数	646件
調査内容	放課後の過ごし方、情報の入手先、学校生活、等
④調査票「中学生の生活に関する調査（中学2年生）」	
調査対象者	中学2年生
調査件数	693件
調査内容	放課後の過ごし方、情報の入手先、学校生活、等



3 調査の実施方法と配布・回収状況

(1) 調査時期と調査方法

調査時期：平成 25 年 10 月～12 月

はがきによる督促を 1 回

調査方法：郵送方式により調査票を配布・回収

(2) 調査の配布・回収状況

図表 1.2 調査票の配布・回収状況

調査対象者区分 地 区	就学前児童の保護者			小学校児童の保護者		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	1,800 件	772 件	42.9%	916 件	451 件	49.2%

調査対象者区分	小学 5 年生			中学 2 年生		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	646 件	288 件	44.6%	693 件	266 件	38.2%

4 報告書の見方について

国資料は「就学前児童」と「就学児童」の名称を使用していますが、この報告書では違いを明確にするため、「就学児童」を「小学校児童」と表記しています。

(1) 年齢・学年の定義

就学前児童・小学校児童の年齢定義は、ニーズ調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

図表 1.4 ニーズ調査における年齢・学年定義

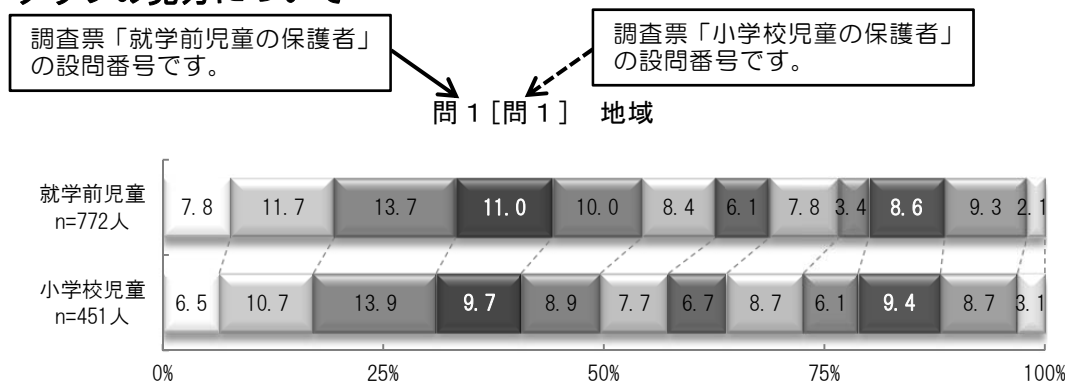
年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	平成24年4月以降	6歳児	平成18年4月～平成19年3月
1歳児	平成23年4月～平成24年3月	7歳児	平成17年4月～平成18年3月
2歳児	平成22年4月～平成23年3月	8歳児	平成16年4月～平成17年3月
3歳児	平成21年4月～平成22年3月	9歳児	平成15年4月～平成16年3月
4歳児	平成20年4月～平成21年3月	10歳児	平成14年4月～平成15年3月
5歳児	平成19年4月～平成20年3月	11歳児	平成13年4月～平成14年3月

(注) 調査期間【平成25年度】における年齢定義

(2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

(3) グラフの見方について





5 調査結果からみた国立市の課題

課題1 子育て中の保護者からの視点に立った施策展開のあり方

地域の子育て支援の環境や支援に対する満足度をみると、就学前児童では「満足度が高い（3.6%）＋満足度がやや高い（17.5%）」＝21.1%に対し、「満足度が低い（13.2%）＋満足度がやや低い（26.2%）」＝39.4%で、18.3ポイントの差がついています。小学生児童についても満足系（19.3%）、不満系（34.0%）でこちらも14.7ポイントの差があります。

この評価をさらに引き上げるためには、子育て中の保護者の視点に立った施策展開が必要です。

課題2 ニーズ対応できる幼稚園、認定こども園、預かり保育等の整備

平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望（利用していない方も含む）の伸びをみると、「幼稚園の預かり保育」が8.7%⇒25.0%で16.3ポイント増、「幼稚園」が36.6%⇒52.5%で15.9ポイント増、「認定こども園」が0.4%⇒15.5%で15.1ポイント増、「ファミリー・サポート・センター」が1.6%⇒13.1%で11.5ポイント増のように10ポイント以上の伸びとなっています。

また、利用しない理由をみてみると「利用したいが、保育・教育事業に空きがない」（18.7%）いることから、これらも踏まえこのニーズ量と現状との乖離を分析し、整備していくことが必要です。

課題3 母親の就労状況に準じた教育・保育事業の運営のあり方

日常的に子育てに関わっている方は父親よりも母親の割合が大きいことから、母親の就労状況をみると、就学前児童で42.6%が就労しています。その帰宅時間は19時台まで約85%、そのうち「18～19時台」が5割を超えており、19時台まで預けられるような教育・保育事業の運営にあり方について検討が必要です。また、母親の就労日数では「6日以上／週」が就学前児童で8.7%ほどいることや現在、就労していない母親の63.4%が就労希望を持っていることから教育・保育事業に対する土曜日と日曜・祝日の運営をどうするか検討が必要です。

課題4 放課後児童クラブ（学童保育）を充実した事業内容のあり方

放課後の過ごし方の希望をみると、就学前児童（3歳以上）では小学校低学年のうち「ほうかごキッズ」50.7%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が38.4%、小学校高学年になると「ほうかごキッズ」（47.9%）でほぼ変わらないが、「放課後児童クラブ（学童保育）」が21.8%で16.6ポイント減少し、その減少分が「塾や習い事」と「自宅」へ移行しています。また、土曜日の利用希望は、「低学年の間は利用したい」が28.2%、「高学年になっても利用したい」が16.9%という希望もあります。小学校児童に対する下校途中に殺傷事件が起きている社会の現状

を考えると、安全な放課後の過ごし方について、「放課後児童クラブ（学童保育）」は子どもを預かるだけでなく、子どもの資質向上に繋がる事業内容を充実させることも必要です。

課題5 地域の子育て支援拠点事業に対する利用者増加対策のあり方

地域の子育て支援拠点事業の利用状況は「子育て広場等・カンガルー広場」（20.7%）と低率に留まっていることから、利用促進に向けた検討が必要です。この事業には子育て支援の相談機能もあって気軽に相談できる環境が整っているため、利用者が多くなれば子育て中の保護者の相談相手として十分な役割を担うことができます。

課題6 病児・病後児保育のニーズ

父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向は、47.2%と高いニーズとなっていますが、利用したい事業形態では「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（79.7%）、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」（59.3%）となっており、ハードルが高いものになっています。国のワークシートからも高いニーズがでており、医師会等も含め関係機関と方策を検討する必要があります。

課題7 経済的な理由で教育・保育事業を利用できない家庭に対する支援のあり方

定期的な教育・保育等を利用しない理由の中で、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」と回答した方は、252人のうち14人（5.6%）います。このような家庭に対しては、適切な教育・保育事業を利用できるように検討することが必要です。

課題8 就学前児童の保護者から周知度の低い事業の周知のあり方

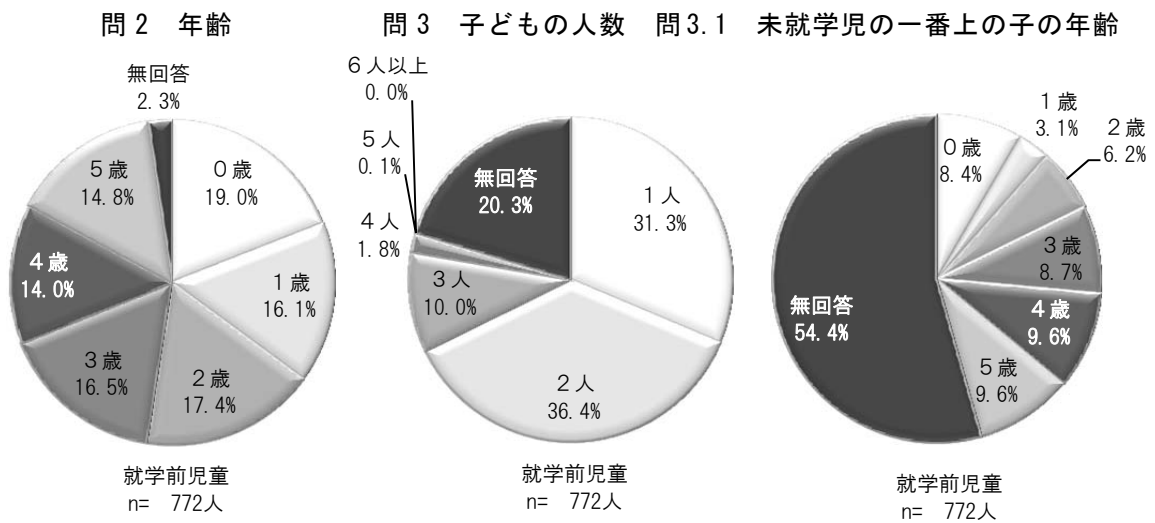
就学前児童の保護者の子育て支援事業の周知度をみると、「家庭教育に関する学級・講座」（23.6%）、「教育相談センター・教育相談室」（35.2%）などは低く、利用状況も5%台となっています。また、今後の利用意向をみると「自治体発行の子育て支援情報誌」が6割を超え最も多くなっていることから、情報を得る手段や正しい情報を得たいということがうかがえます。わかりやすく、身近なところで情報を得る工夫などが必要です。将来的な利用率を高めるためにも就学前児童の保護者に対しての周知度を高める検討が必要です。

6 調査対象者の属性・家族状況

(1) 就学前児童の属性

年別にみると、「0歳」(19.0%)、「2歳」(17.4%)、「3歳」(16.5%)の順となっています。

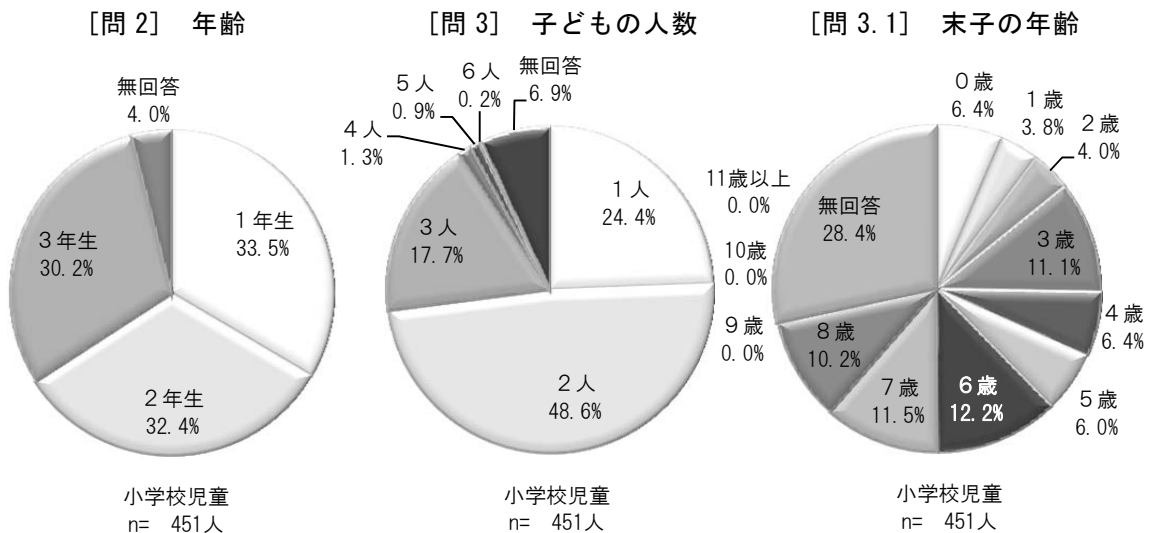
子どもの人数は、「2人」(36.4%)で最も多く、「1人」(31.3%)となっています。



(2) 小学校児童の属性

学年は、「1年生」(33.5%)、「2年生」(32.4%)、「3年生」(30.2%)となっています。

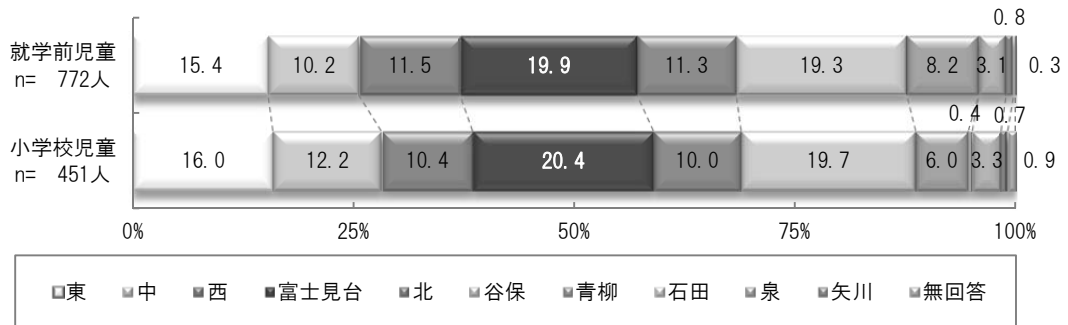
子どもの人数は、「2人」(48.6%)、「1人」(24.4%)が多くなっています。



(3) 居住地域の状況

居住地域は、就学前児童、小学校児童ともに「富士見台」(19.9%) (20.4%) が最も多く、次いで「谷保」(19.3%) (19.7%) となっています。

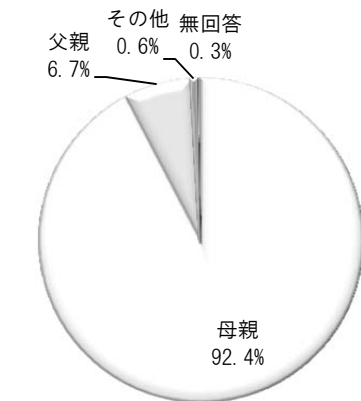
問1[問1] 地域(市全域)



(4) 調査回答者の状況と配偶者有無

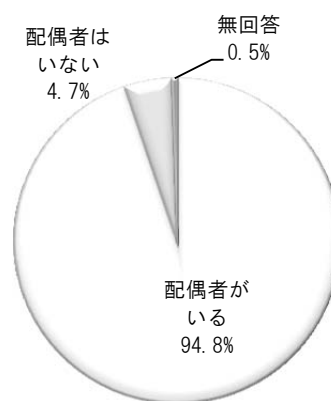
調査回答者は、就学前児童、小学校児童ともに「母親」(92.4%) (88.9%)、配偶者の有無は「配偶者がいる」(94.8%) (90.9%) となっています。

問4 調査回答者(就学前児童)



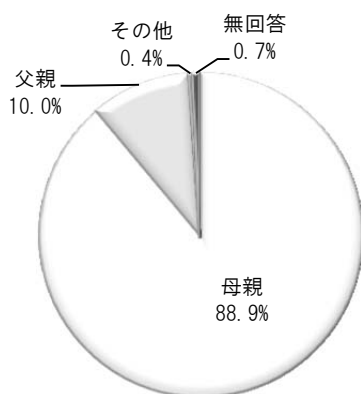
就学前児童
n= 772人

問5 配偶者の有無(就学前児童)



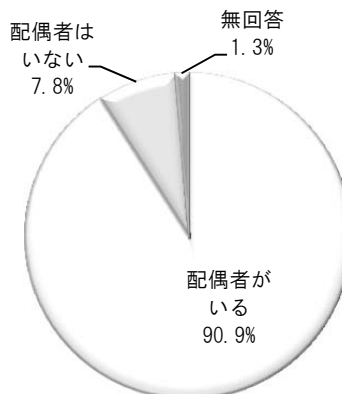
就学前児童
n= 772人

[問4] 調査回答者(小学校児童)



小学校児童
n= 451人

[問5] 配偶者の有無(小学校児童)



小学校児童
n= 451人

第 2 章

子育て家庭を取り巻く環境

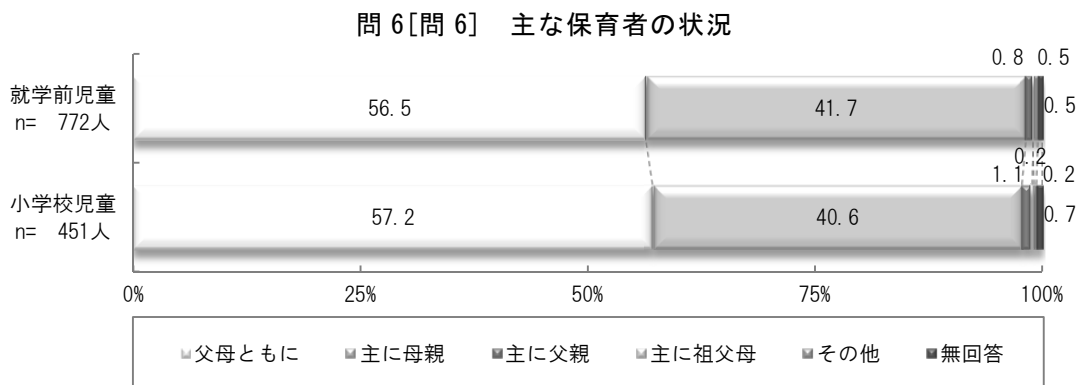
第2章 子育て家庭を取り巻く環境

1 子育ての環境について

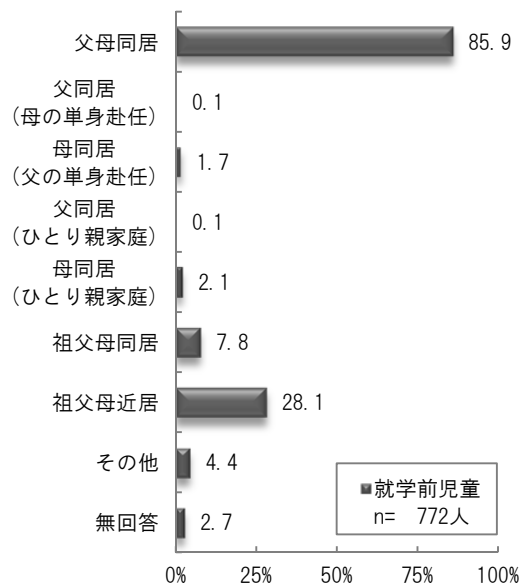
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況

主な保育者の状況をみると、就学前児童では「父母ともに」(56.5%)と「主に母親」(41.7%)が大半を占めています。小学校児童でも「父母ともに」(57.2%)と「主に母親」(40.6%)と同じような傾向となっています。

同居及び近居の状況では、「父母同居」(85.9%)、「祖父母同居」(7.8%)、「祖父母近居」(28.1%)となっています。



問 6-1[問 6-1] 同居及び近居の状況

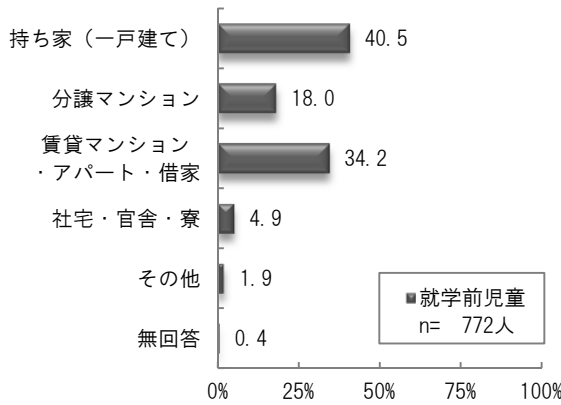


現在の住まいは、「持ち家（一戸建）」（40.5%）が最も多く、次いで「賃貸マンション・アパート・借家」（34.2%）となっています。

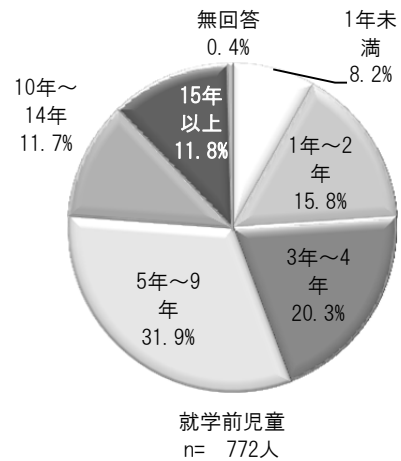
居住期間は、「5年～9年」（31.9%）で最も多く、次いで「3年～4年」（20.3%）となっています。

日常的に子育てに関わっている方（施設含む）は、「父母ともに」（58.7%）、「母親」（36.1%）、「幼稚園」（30.8%）の順に多くなっています。また、子育てに影響を与える環境は、「家庭」（93.5%）が最も多く、次いで「幼稚園」（37.7%）、「保育所」（25.5%）、「地域」（24.5%）の順に多くなっています。

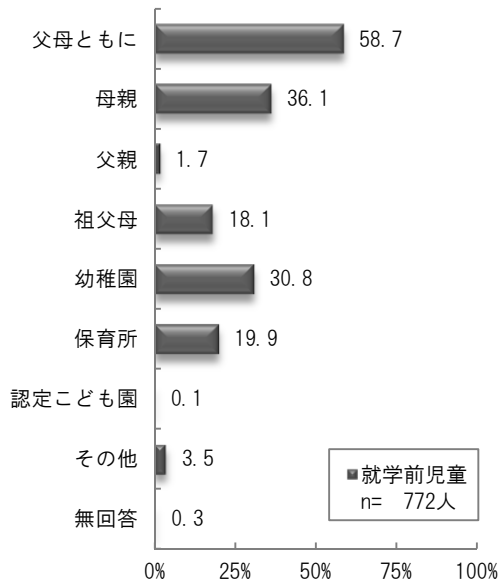
問 6-2 現在の住まい



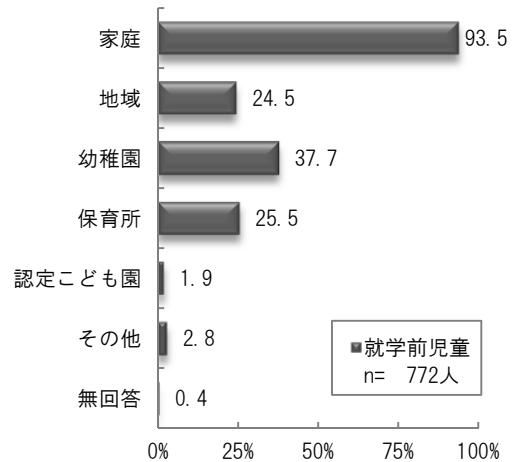
問 6-3 国立市の居住期間



問 7 日常的に子育てに関わっている方（施設含む）



問 8 子育てに影響を与える環境

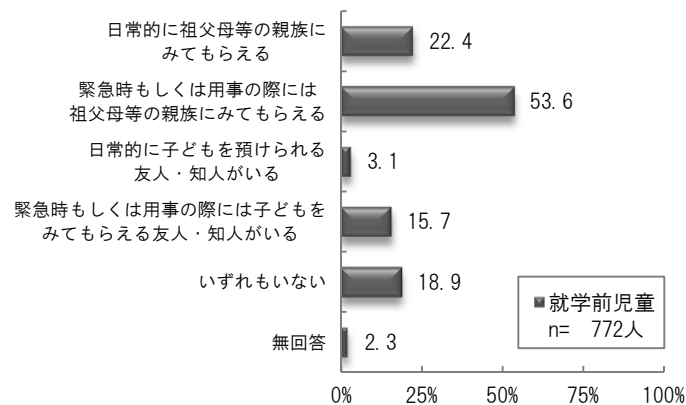


主な親族等協力者の状況をみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(53.6%)が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(22.4%)の順に多くなっています。

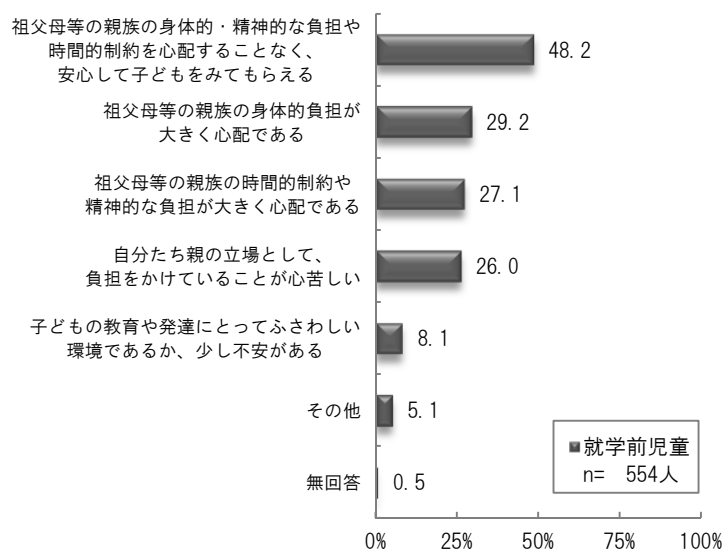
祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考えに対して、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」方(48.2%)がいる一方で、祖父母の身体的・精神的な負担を心配しながらも子どもを見てもらっている方(29.2%)(27.1%)もいます。

友人・知人に預かってもらうことへの考えに対して、「友人・知人の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」方(41.0%)がいる一方で、友人・知人の身体的・精神的な負担を心配しながらも子どもを見てもらっている方(8.2%)(27.6%)もいます。また、「自分たち親の立場として、負担を心がけているのが心苦しい」(29.9%)という考えの方もいます。

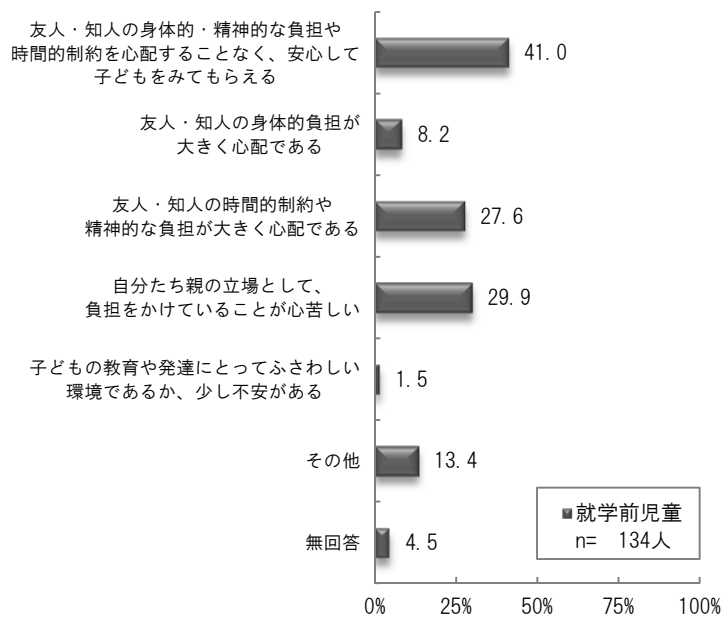
問9 主な親族等協力者の状況



問9-1 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え



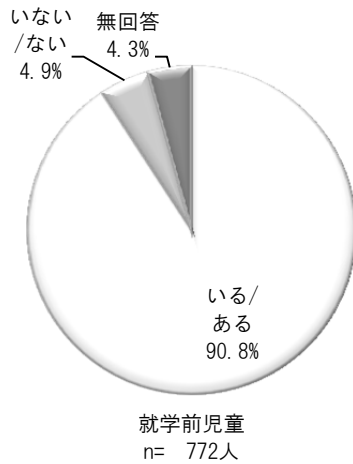
問 9-2 友人・知人に預かってもらうことへの考え



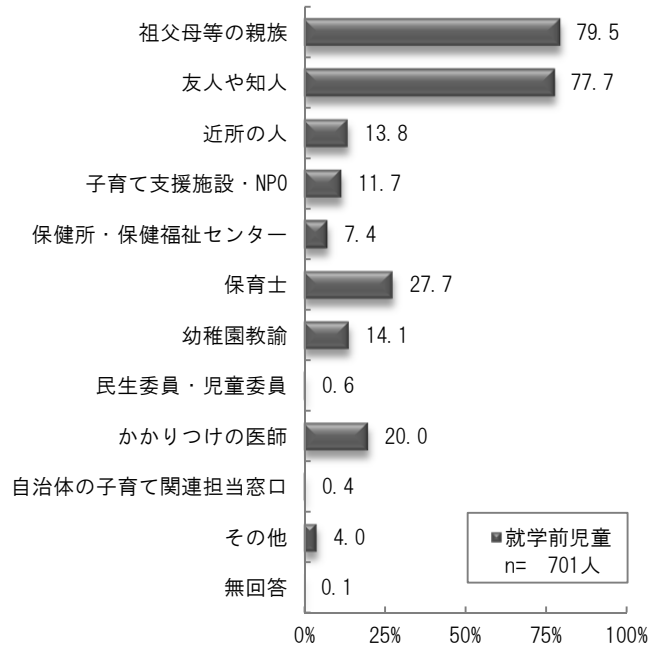
(2) 子育てに関する相談者の状況

気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」(90.8%)とほとんどの方が「いる」または「ある」と答えています。その相談できる相手としては、「祖父母等の親族」(79.5%)、「友人や知人」(77.7%)が多く、「保育士」(27.7%)「かかりつけの医師」(20.0%)の順となっています。

問10 気軽に相談できる人の有無



問10-1 気軽にできる相談者の状況

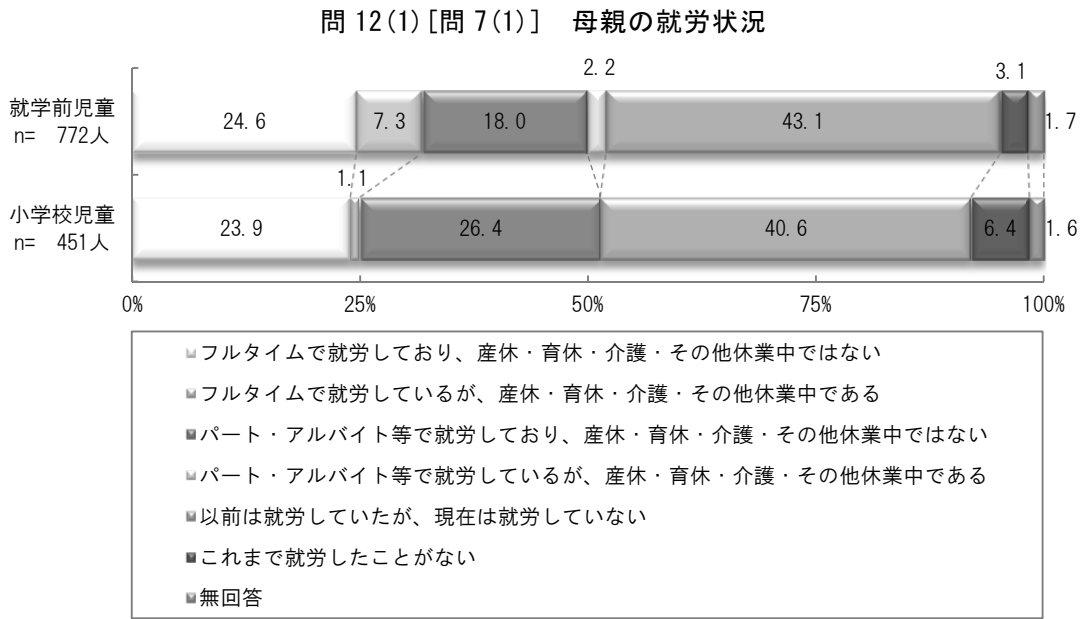


2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

母親の就労状況をみると、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」(43.1%)が最も多く、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(24.6%)、「フルタイムで就労しているが産休・育休・介護・その他休業中である」(7.3%)となっています。

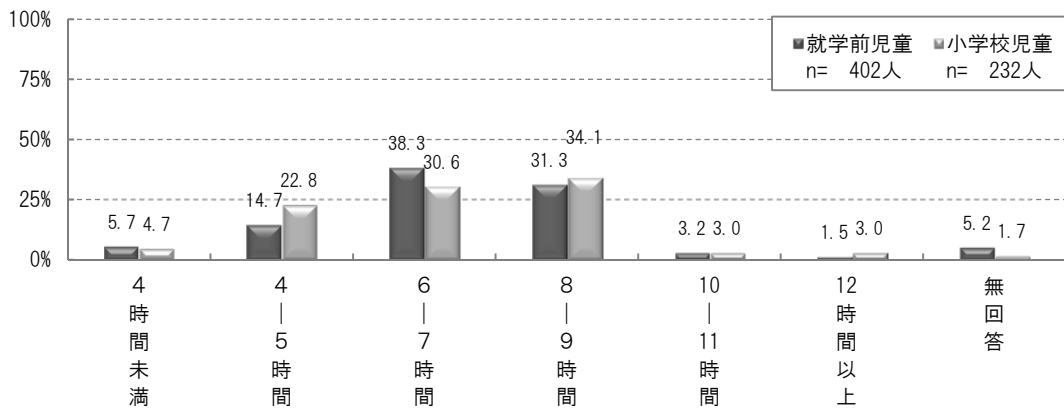
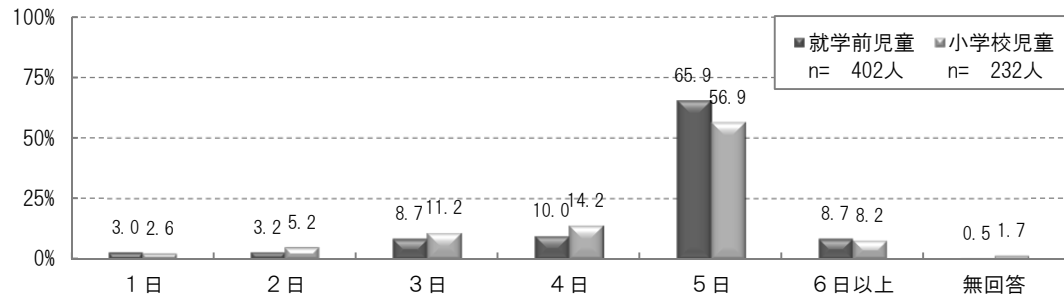
小学校児童でも「以前は就労していたが、現在は就労していない」(40.6%)が最も多く、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(26.4%)で就学前児童に比べ多くなっています。



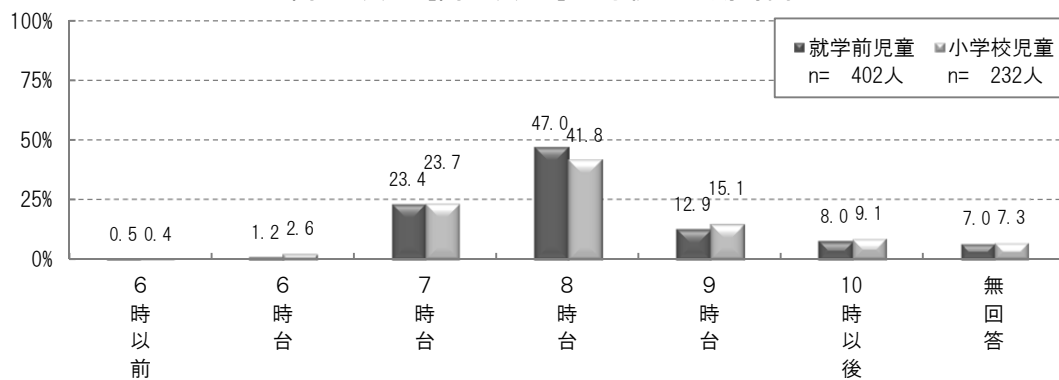
母親の就労日数・就労時間をみると、就学前児童では「5日」(65.9%)、「6-7時間」(38.3%)、小学校児童では「5日」(56.9%)、「8-9時間」(34.1%)が最も多くなっています。

母親の出勤時間は、就学前児童、小学校児童ともに「8時台」(47.0%)(41.8%)で最も多く、帰宅時間は、就学前児童、小学校児童ともに「18-19時台」(52.7%)(36.6%)が最も多くなっています。

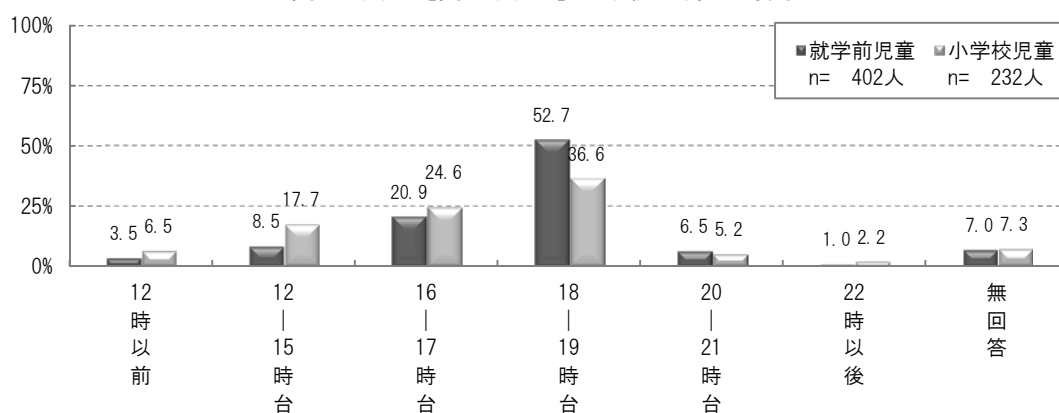
問 12(1)-1[問 7(1)-1] 母親の就労日数(1週当たり)・就労時間(1日当たり)



問 12(1)-2[問 7(1)-1] 母親の出勤時間



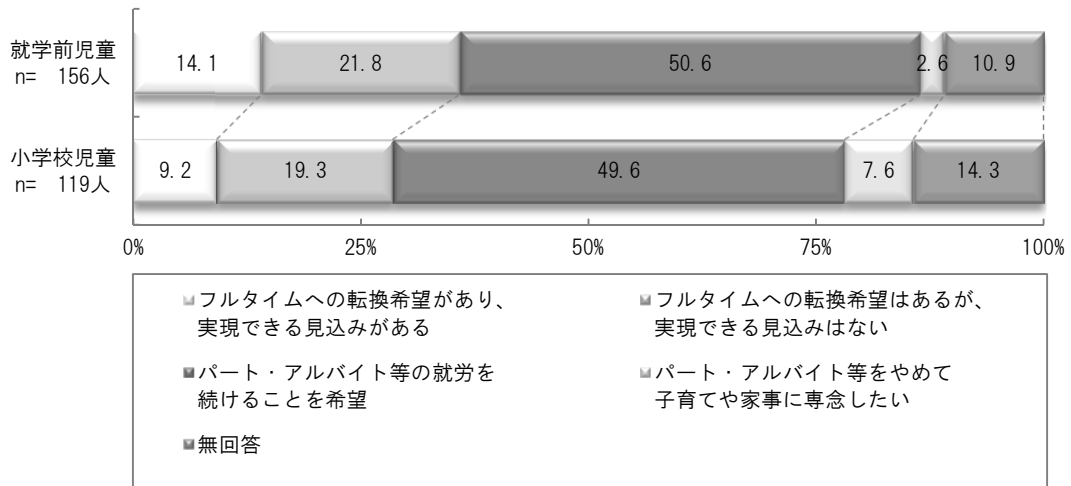
問 12(1)-2[問 7(1)-1] 母親の帰宅時間



母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると、就学前児童ではフルタイム勤務を希望する方は（14.1%）（21.8%）いますが、実現できる見込みのある方は14.1%となっています。

一方、小学校児童でもフルタイム勤務を希望する方は（9.2%）（19.3%）いますが、実現できる見込みのある方は9.2%と1割弱に留まっています。

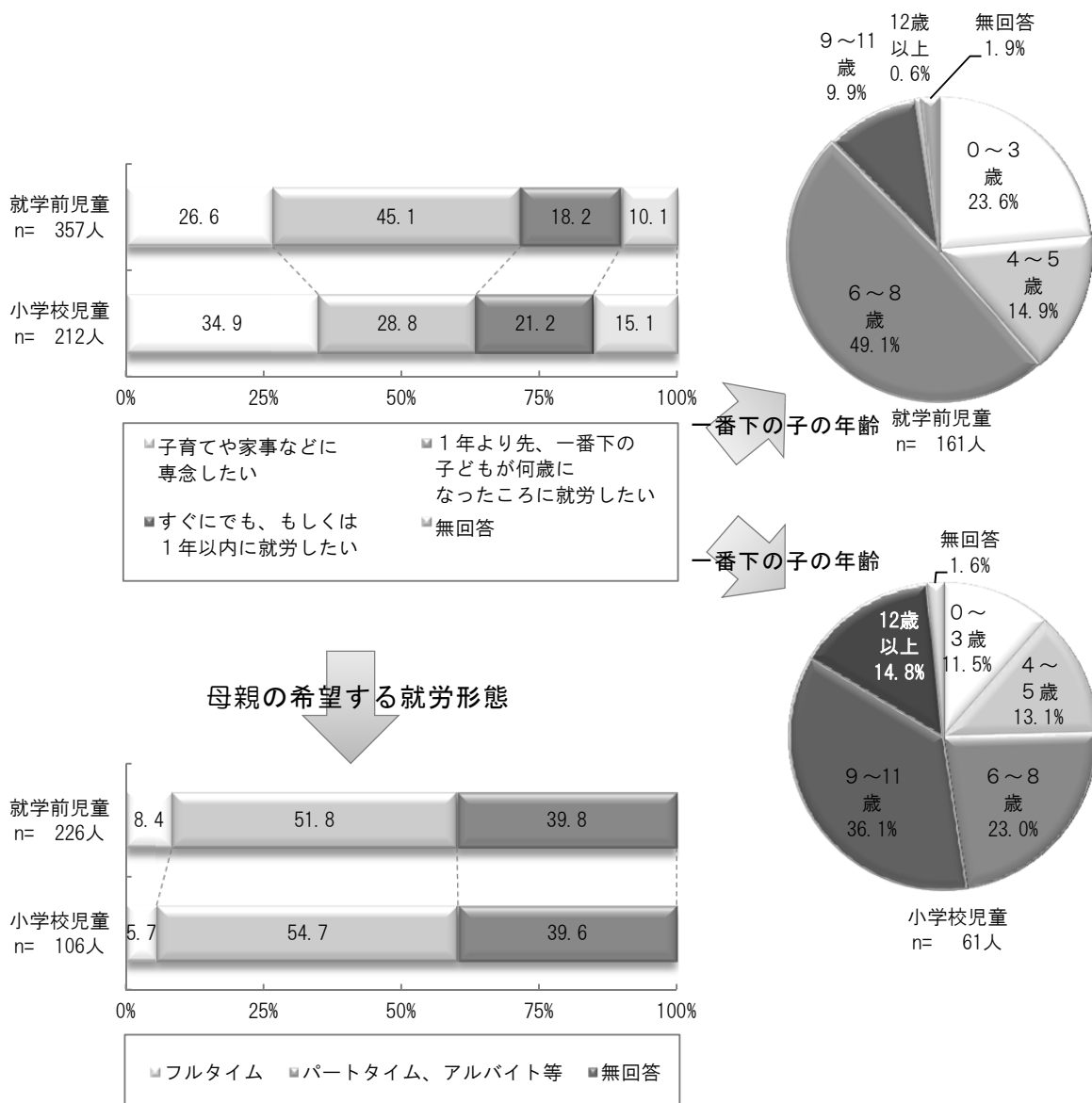
問 13(1) [問 8(1)] 母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向



就労していない母親に対して今後の就労希望を聞いたところ、就学前児童では就労したい方が 63.3%おり、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したい」(45.1%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(18.2%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(51.8%)、「フルタイム」(8.4%)となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「6～8歳」(49.1%)、「0～3歳」(23.6%)、「4～5歳」(14.9%)の順でした。

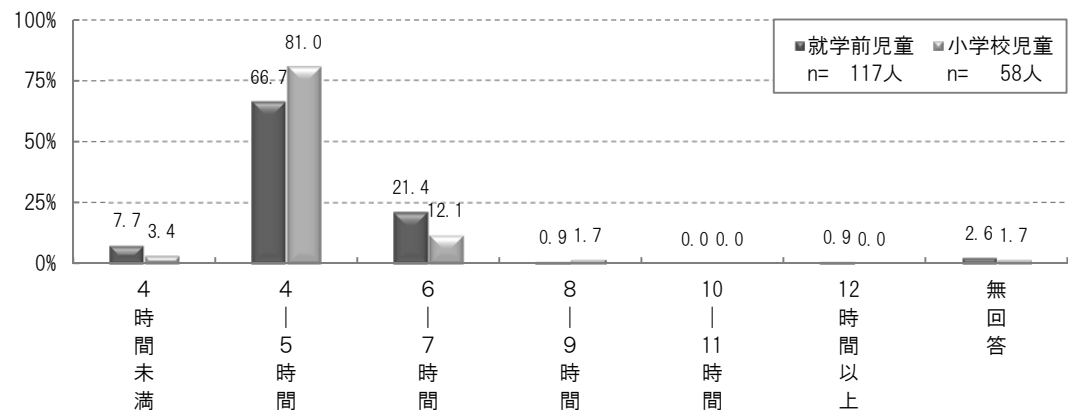
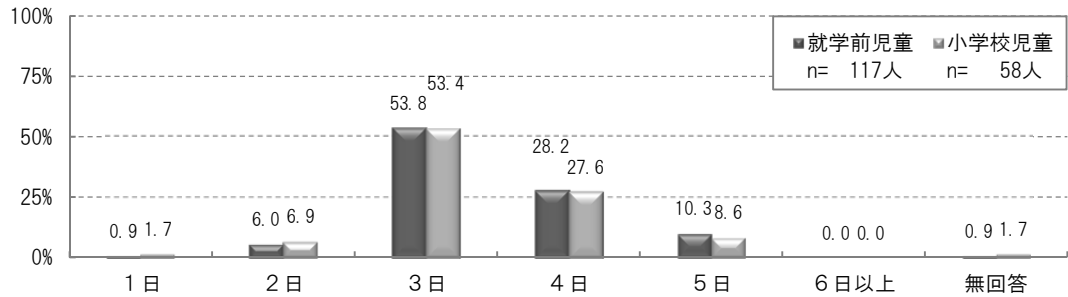
小学校児童では就労したい方が 50.0%おり、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したい」(28.8%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(21.2%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(54.7%)、「フルタイム」(5.7%)となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「9～11歳」(36.1%)、「6～8歳」(23.0%)、「12歳以上」(14.8%)の順となっています。

問 14(1) [問 9(1)] 就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢



母親の希望する就労形態をみると、就学前児童、小学校児童ともに就労日数は「3日」(53.8%) (53.4)、「4日」(28.2%) (27.6%) の順、就労時間は「4-5時間」(66.7%) (81.0)、「6-7時間」(21.4%) (12.1%) の順となっています。

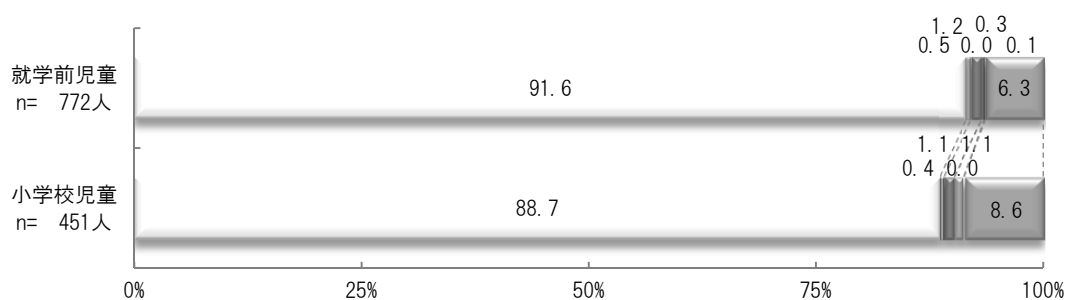
問 14(1)-2[問 9(1)-2] 母親の希望就労日数(1週当たり)と希望就労時間(1日当たり)



(2) 父親の就労状況

父親の就労状況をみると、就学前児童、小学校児童では「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」(91.6%) (88.7%) で最も多くなっています。

問 12(2) [問 7(2)] 父親の就労状況

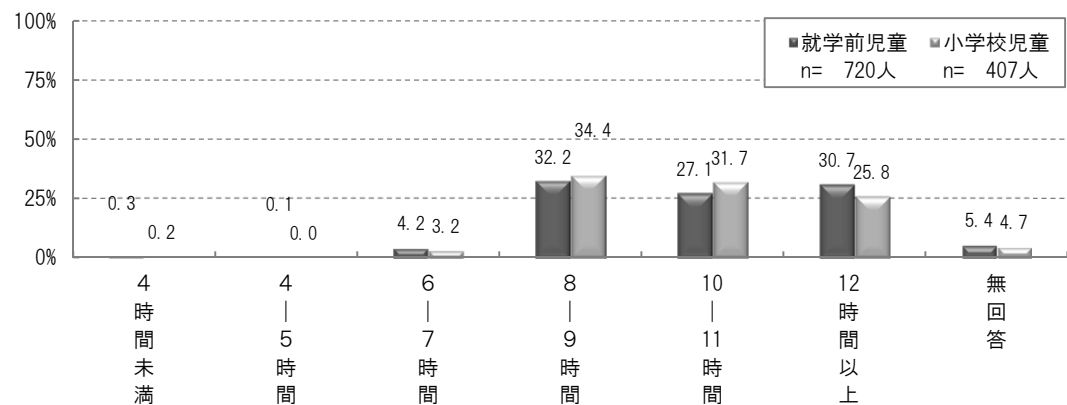
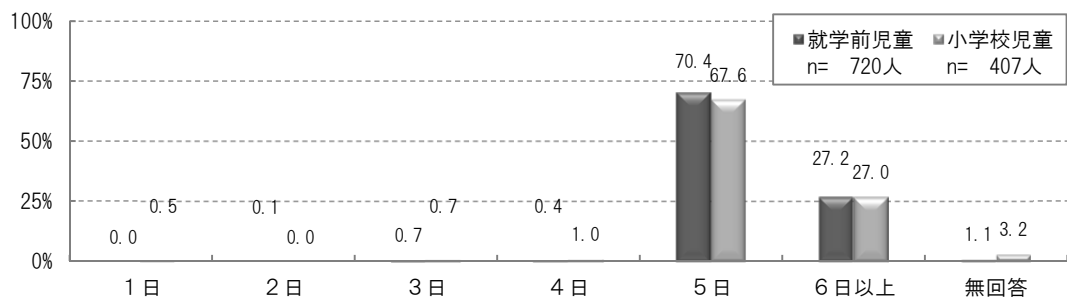


- フルタイムで就労しており、育休・介護・その他休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、育休・介護・その他休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護・その他休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護・その他休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

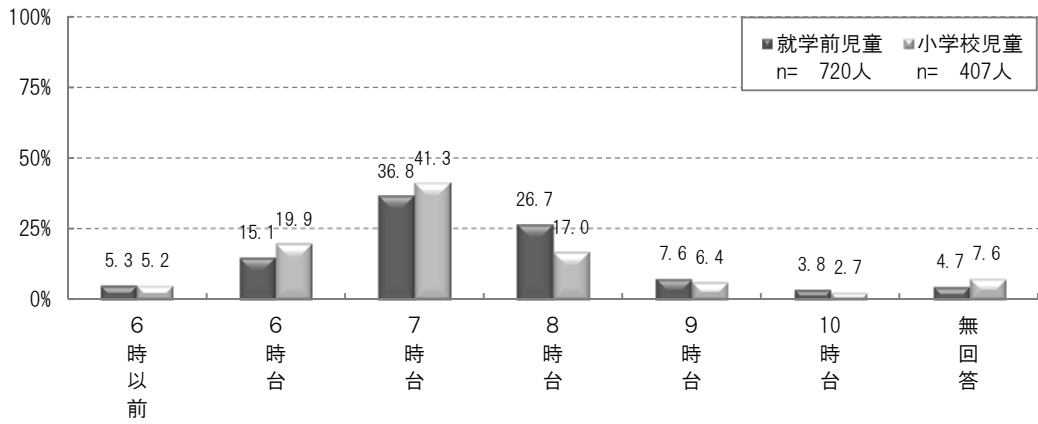
父親の就労日数・就労時間をみると、就学前児童では「5日」(70.4%)、「8-9時間」(32.2%)、小学校児童では「5日」(67.6%)、「8-9時間」(34.4%)が最も多く、両者ともに「6日以上」(27.2%) (27.0%)、就労時間では「10-11時間」(27.1%) (31.7%)、「12時間以上」(30.7%) (25.8%)となっています。

父親の出勤時間は、就学前児童、小学校児童ともに「7時台」(36.8%) (41.3%)、帰宅時間は、「20-21時台」(33.9%) (31.0%)が最も多く、22時以後の帰宅も差がなく続いています。

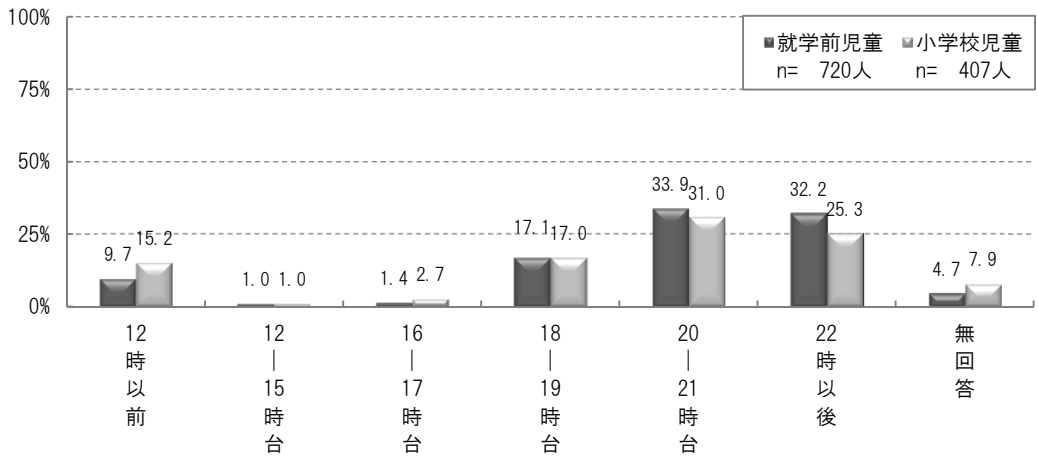
問 12(2)-1[問 7(2)-1] 父親の就労日数(1週当たり)・就労時間(1日当たり)



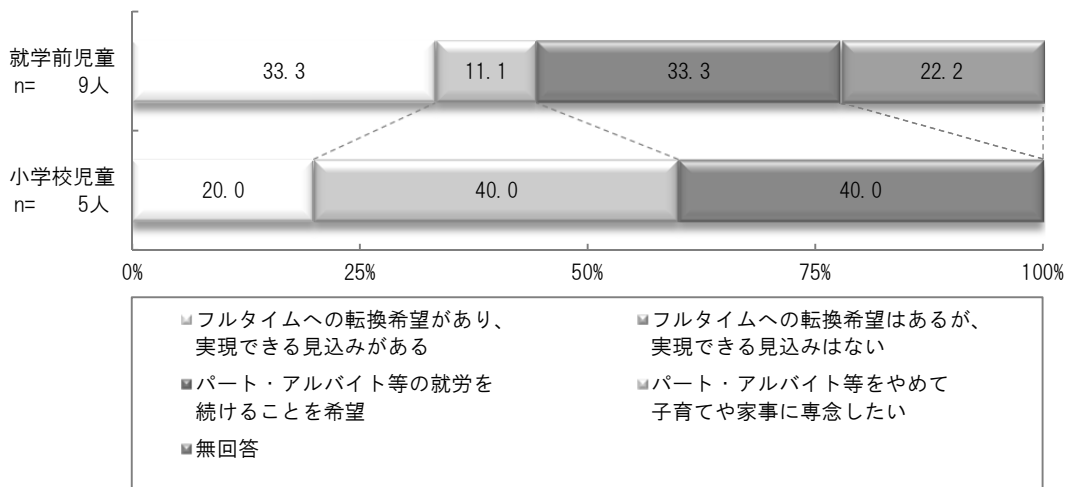
問 12(2)-2[問 7(2)-1] 父親の出勤時間



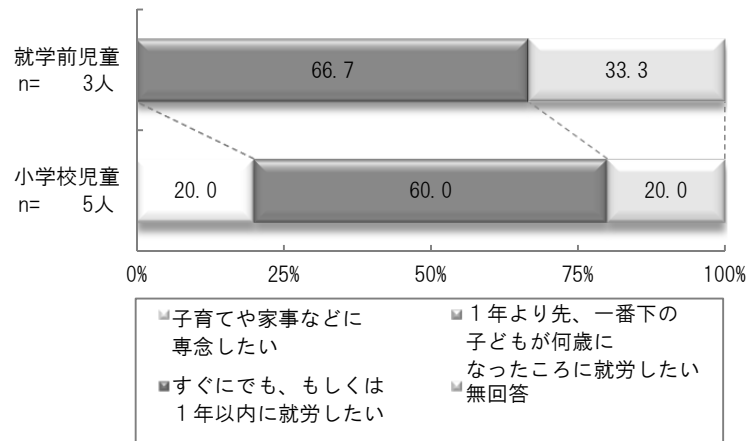
問 12(2)-2[問 7(2)-1] 父親の帰宅時間



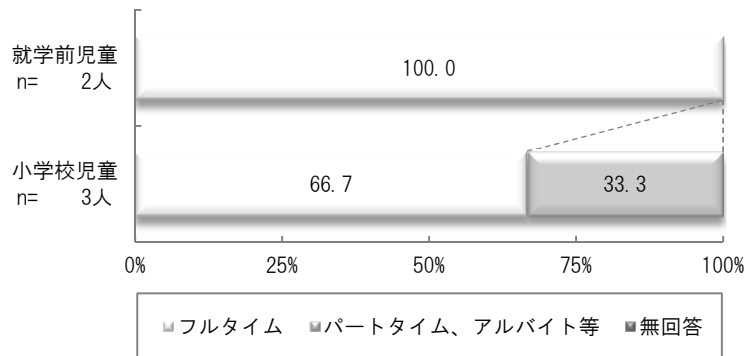
問 13(2) [問 8(2)] 父親のパートタイムからフルタイム勤務への意向



問 14(2) [問 9(2)] 就労していない父親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢

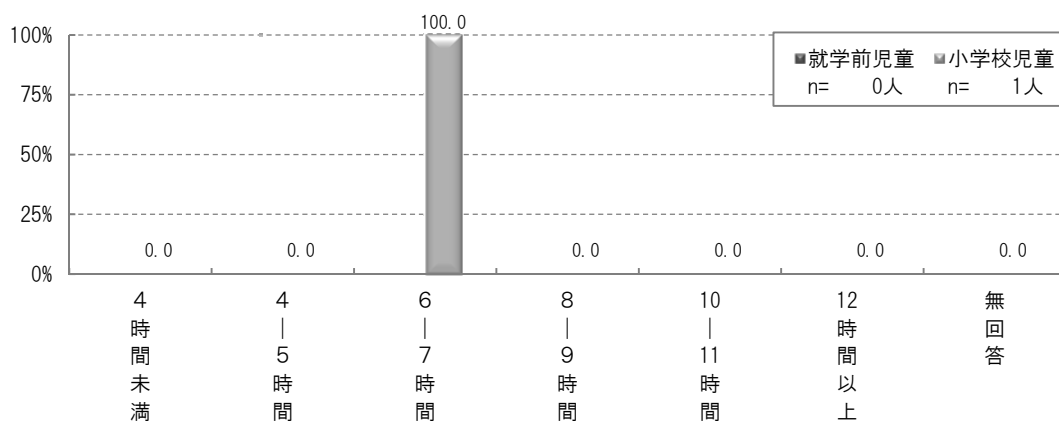
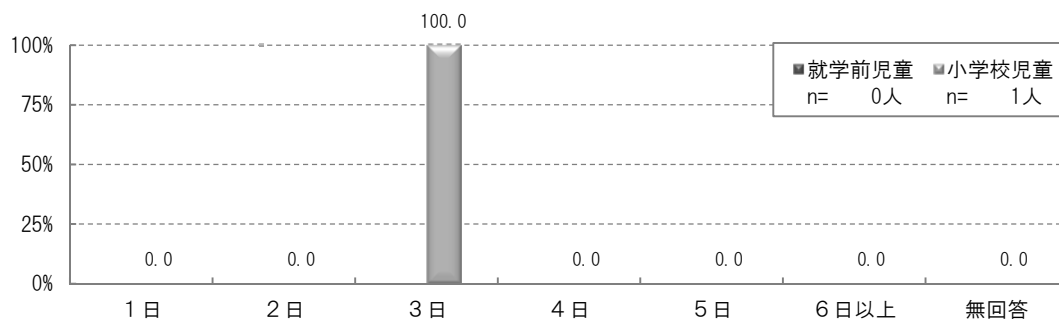


父親の希望する就労形態





問 14(2)-2[問 9(2)-2] 父親の希望就労日数(1週当たり)と希望就労時間(1日当たり)



第 3 章
子育て支援サービスの現状と
今後の利用希望

第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

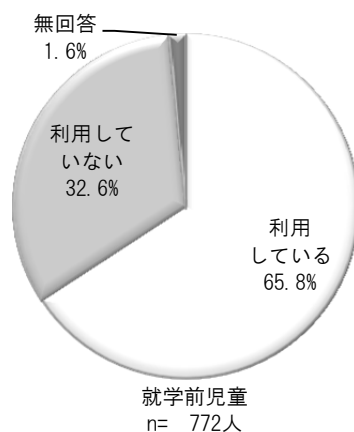
(1) 平日の定期的な教育・保育事業（全体）

定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、「利用している」(65.8%) となっています。

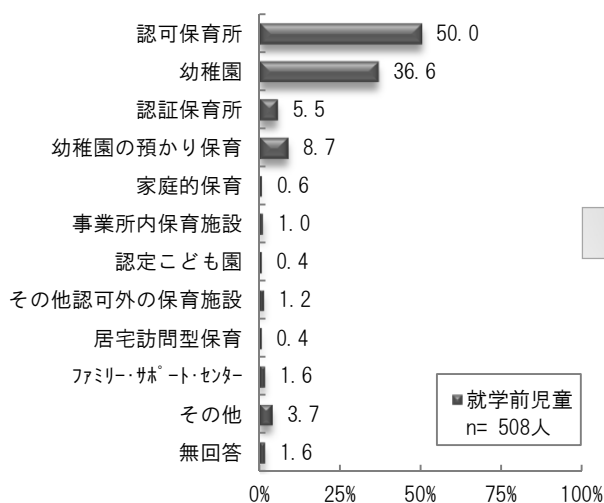
利用中の事業としては、「認可保育所」(56.0%)、「幼稚園」(36.6%)、「幼稚園の預かり保育」(8.7%)、「認証保育所」(5.5%) の順に多くなっています。

一方、今後の利用希望では「認可保育所」(56.0%)、「幼稚園」(52.5%) と「幼稚園の預かり保育」(25.0%) と「認定こども園」(15.5%) がともに増加しています。

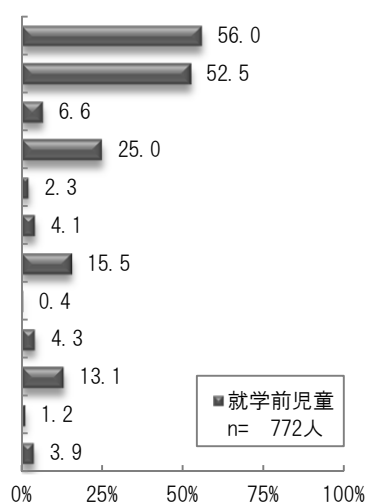
問 15 定期的な教育・保育事業の利用状況



問 15-1 利用中の定期的な教育・保育事業



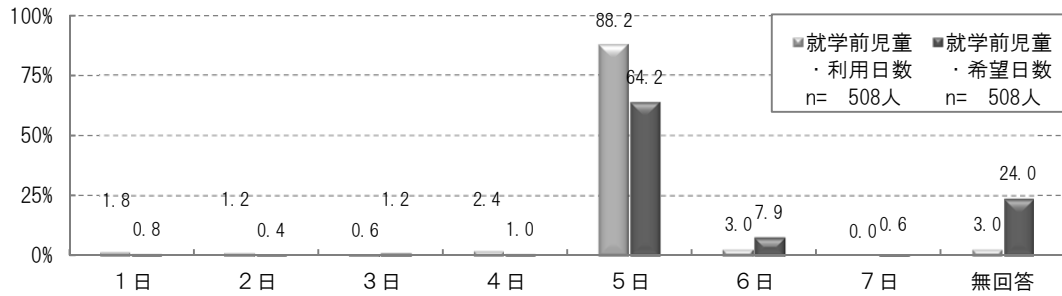
問 16 希望する定期的な教育・保育事業



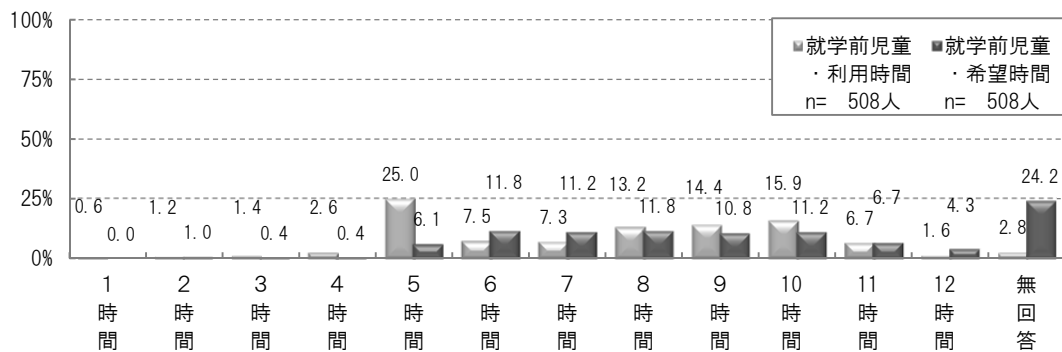
定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（1週当たり）をみると、利用では「5日」（88.2%）（64.2%）が最も多くなっています。

また、利用時間と希望時間（1日当たり）について、利用では「5時間」（25.0%）、が最も多く、希望では「5時間」～「12時間」までの希望があり、個別の実情が多くあることがうかがえます。

問 15-2 (1)-1 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（1週当たり）

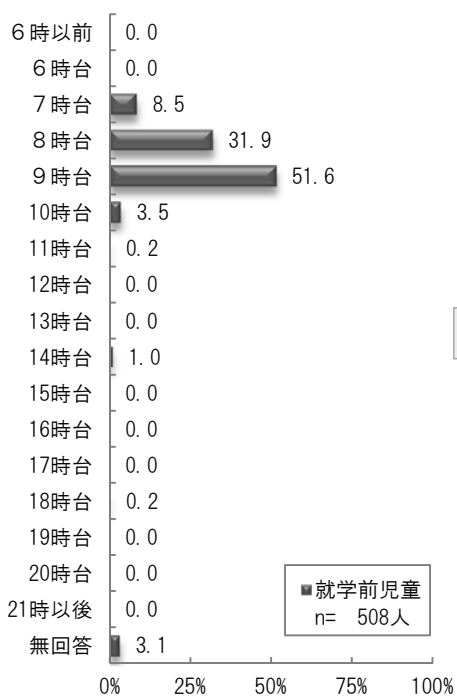


問 15-2 (1)-2 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（1日当たり）

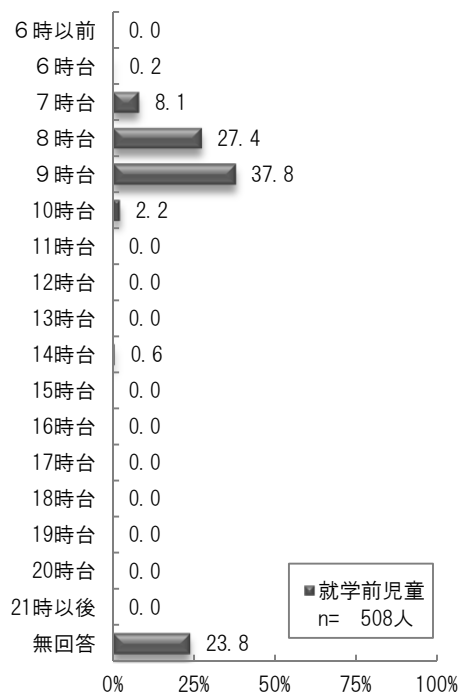


定期的な教育・保育事業の利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「9 時台」(51.6%)、「8 時台」(31.9%)、の利用順、終了時間は「14 時台」(28.5%)、「17 時台」(20.7%)、「18 時台」(19.3%) の利用順となっています。利用希望時間は、「14 時台」～「20 時台」まで幅広く希望が出ています。

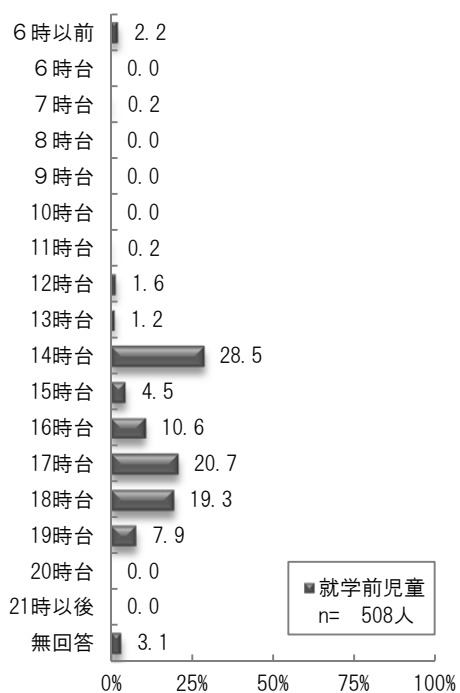
問 15-2 (1)-3 利用開始時間



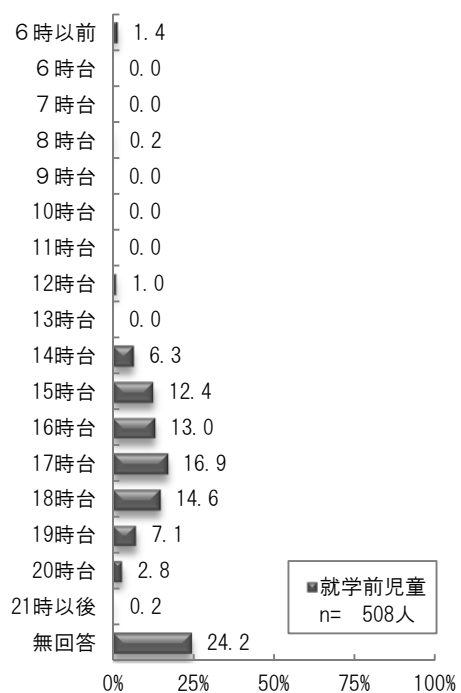
問 15-2 (2)-3 希望開始時間



問 15-2 (1)-4 利用終了時間

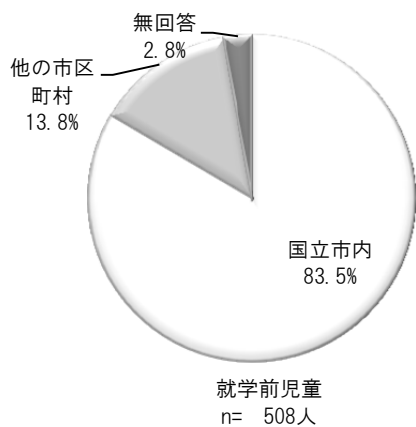


問 15-2 (2)-4 希望終了時間

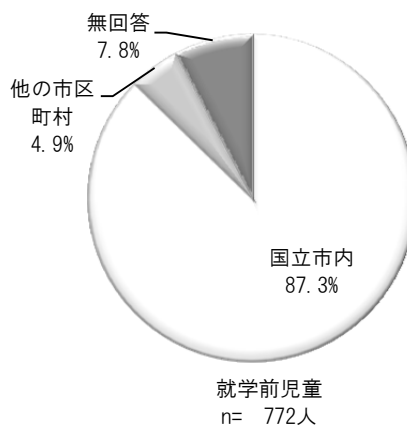


定期的な教育・保育事業の教育・保育施設の利用場所は、「国立市内」(83.5%)と回答し、ほとんどの方が市内の施設を利用しています。一方、希望したい実施場所としては、「国立市内」(87.3%)と増加しています。

問 15-3 教育・保育の実施場所



問 16-1 教育・保育の希望実施場所



(2) 認可保育所

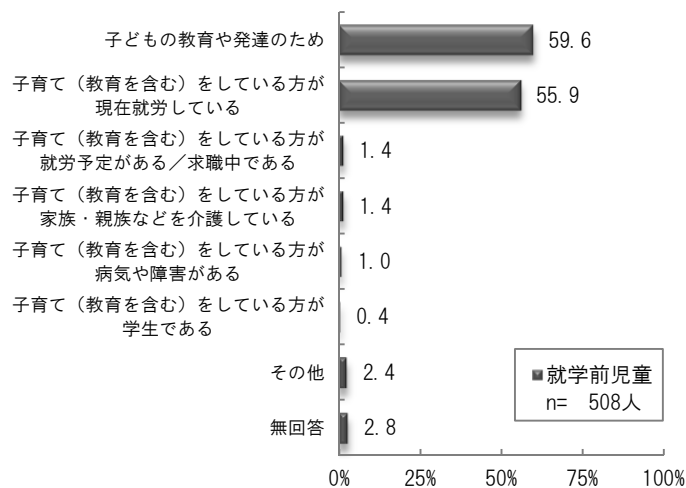
認可保育所の年齢別利用者数は、「3歳」(120人)、「5歳」(110人)、「4歳」(107人)の順に利用されています。

利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」(59.6%)次いで「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」(55.9%)が多く、その他理由はごく少数となっています。

問 15-1. ① 認可保育所の年齢別利用者数



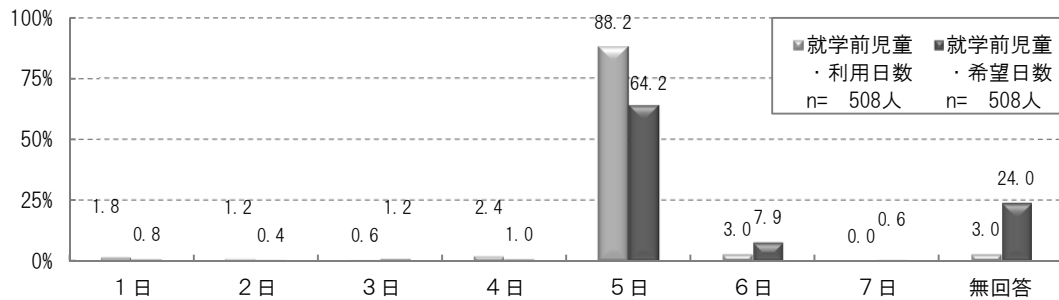
問 15-4. ① 認可保育所を利用している理由



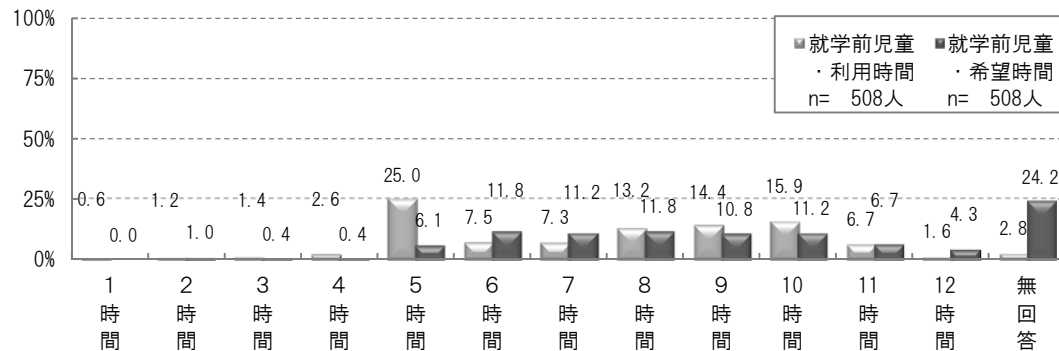
認可保育所の利用日数と希望日数（1週当たり）をみると、利用では「5日」（88.2%）が最も多く、希望では「5日」（64.2%）が減少した一方で「6日」（7.9%）がやや増加しています。

また、利用時間と希望時間（1日当たり）について、利用では「5時間」（25.0%）、「5時間」（32.3%）、「10時間」（15.9%）の順に多く、希望では「5時間」～「12時間」までの希望があります。

問 15-2(1)-1. ① 認可保育所の利用日数と希望日数（1週当たり）

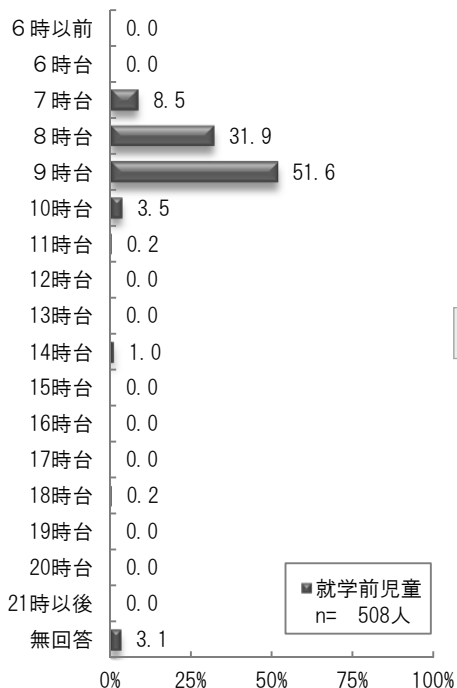


問 15-2(1)-2. ① 認可保育所の利用時間と希望時間（1日当たり）

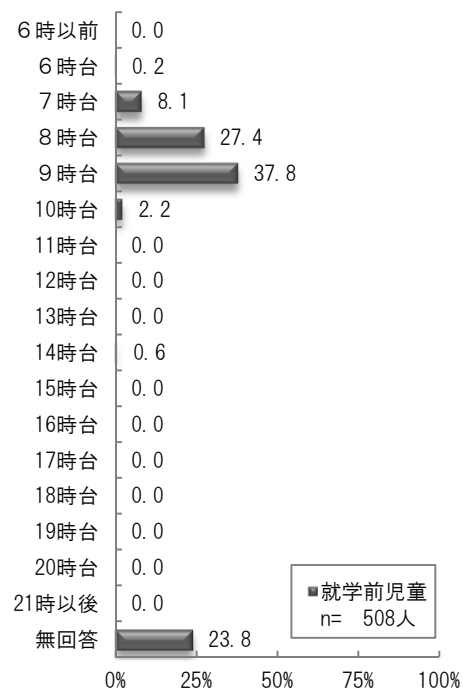


利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「9 時台」(51.6%)、「8 時台」(31.9%)、の利用順、終了時間は「14 時台」(28.5%)、「17 時台」(20.7%)、「18 時台」(19.3%) の利用順となっています。利用時間と希望時間との差は、希望終了時間において「14 時台」が減少した一方で「15 時台」「16 時台」「20 時台」が増加しています。

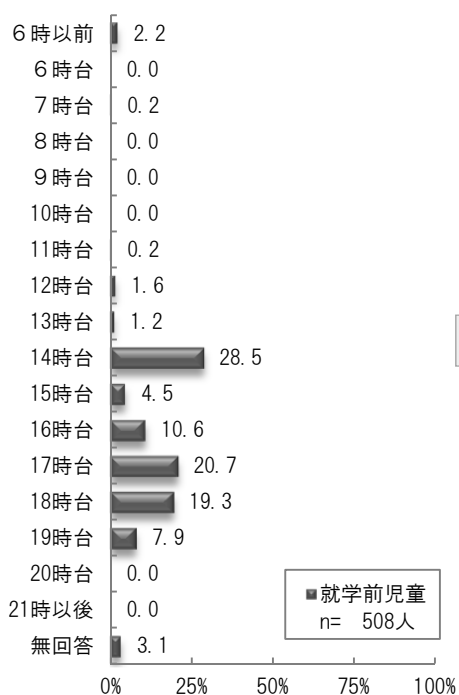
問 15-2(1)-3. ① 利用開始時間



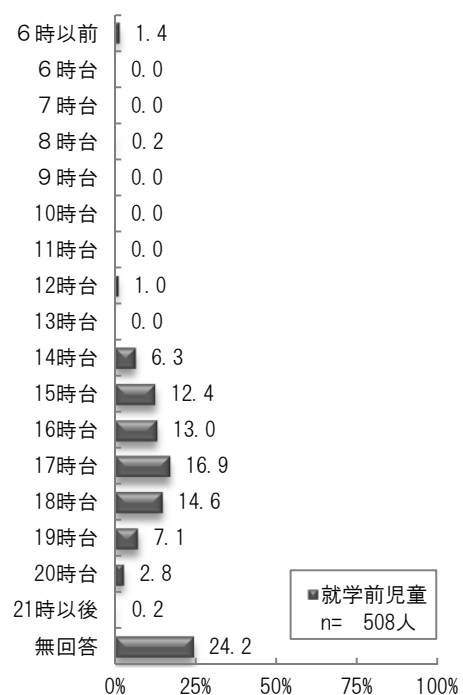
問 15-2(2)-3. ① 希望開始時間



問 15-2(1)-4. ① 利用終了時間



問 15-2(2)-4. ① 希望終了時間

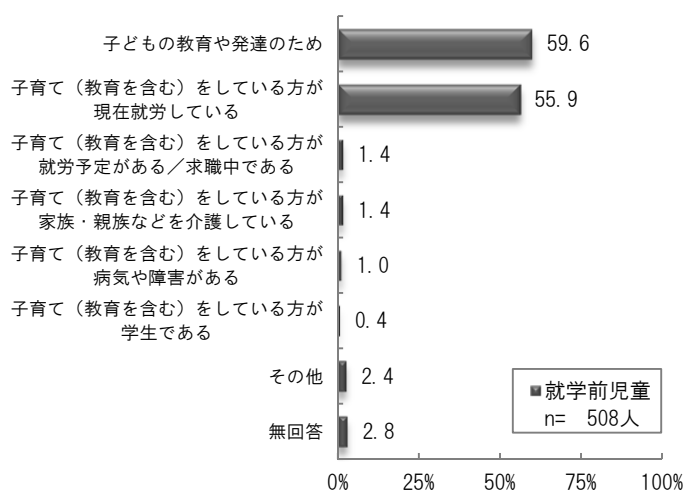


(3) 定期的な教育・保育の利用理由と未利用の理由

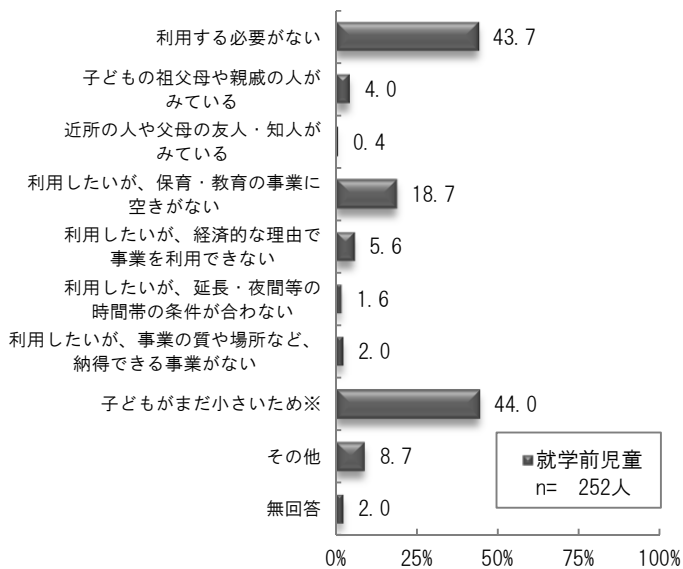
定期的な教育・保育事業を利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」(59.6%)「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」(55.9%)、の順に多く、その他の理由はごく少数となっています。一方、利用しない理由は、「子どもがまだ小さいため」(44.0%)、「利用する必要がない」(43.7%)、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」(18.7%)となっています。

利用を希望する子供の年齢は、「0～3歳」(81.1%)、「4～5歳」(18.0%)の順に多くなっています。

問 15-4 定期的な教育・保育事業を利用している理由

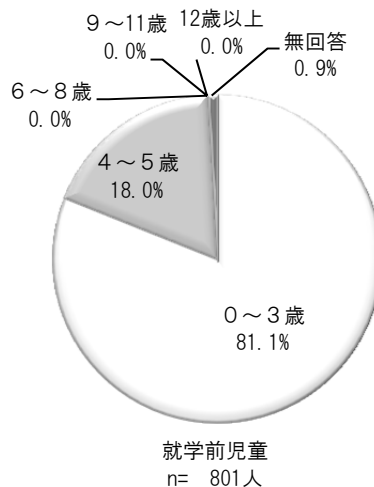


問 15-5 定期的な教育・保育事業を利用しない理由



※ (何歳くらいになったら利用しようと考えている)

問15-5⑧ 利用を希望する子どもの年齢

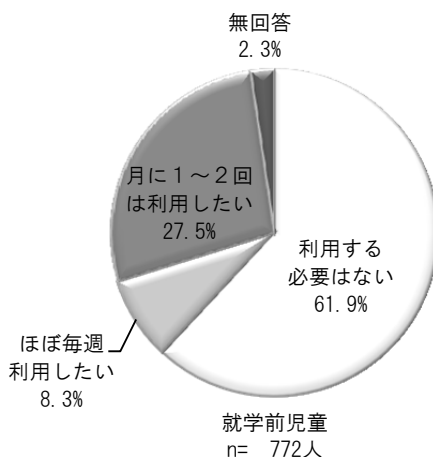


(4) 休日の教育・保育事業の利用意向

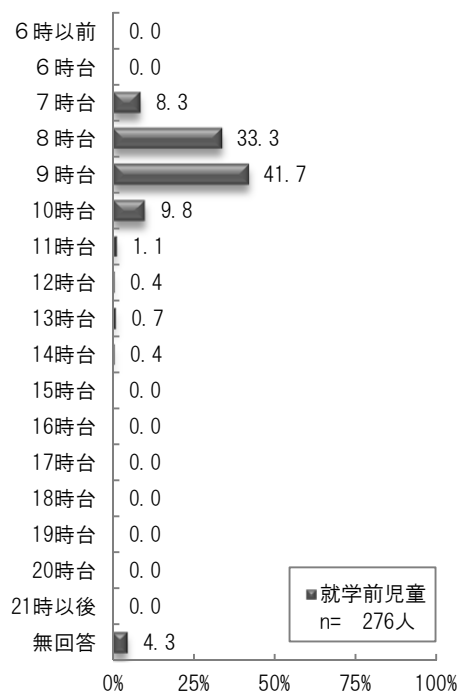
土曜日の利用希望は、「利用する必要はない」(61.9%)、「月に1~2回は利用したい」(27.5%)、「ほぼ毎週利用したい」(8.3%)となっています。

また、利用希望の開始時間は「9時台」(41.7%)、「8時台」(33.3%)、の順、終了時間は、「17時台」「18時台」各(23.9%) (23.9%)となっています。

問 20(1) 土曜日の利用希望



問 20(1).1 土曜日の利用希望開始時間



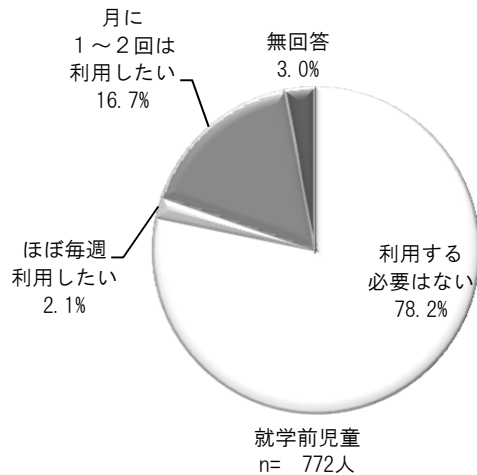
問 20(1).2 土曜日の利用希望終了時間



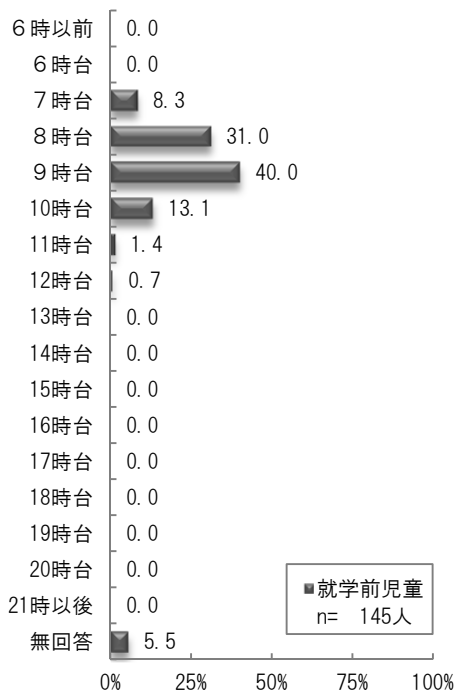
日曜・祝日の利用希望は、「利用する必要はない」(78.2)、「月に1~2回は利用したい」(16.7%)、「ほぼ毎週利用したい」(2.1%)となっています。

また、利用希望の開始時間は「9時台」(40.0%)、「8時台」(31.0%)の順、終了時間は、「18時台」(29.7%)、「17時台」(23.4%)の順に希望しています。

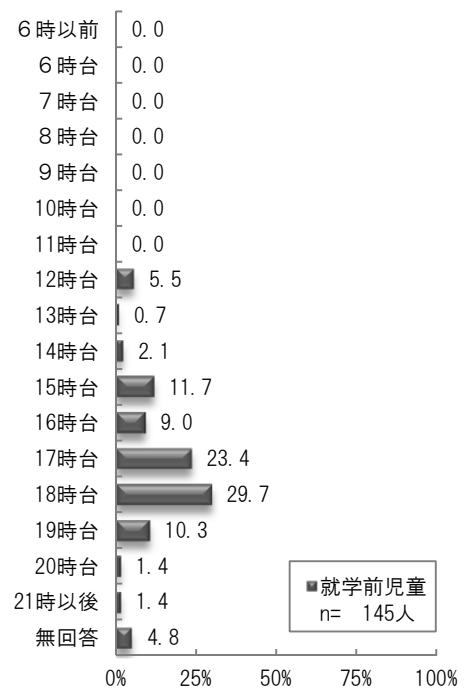
問 20(2) 日曜・祝日の利用希望



問 20(2).1 日曜・祝日の利用希望開始時間

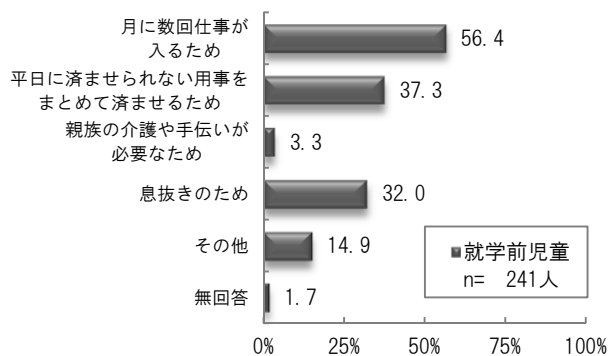


問 20(2).2 日曜・祝日の利用希望終了時間



土曜・日曜・祝日において「月に1～2回は利用したい」方の理由は、「月に数回仕事が入るため」(56.4%)、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(37.3%)、「息抜きのため」(32.0%)の順に多くなっています。

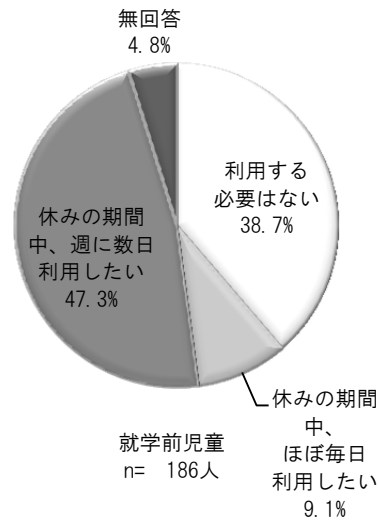
問 20-1 土曜・日曜・祝日「月に1～2回は利用者したい」方の理由



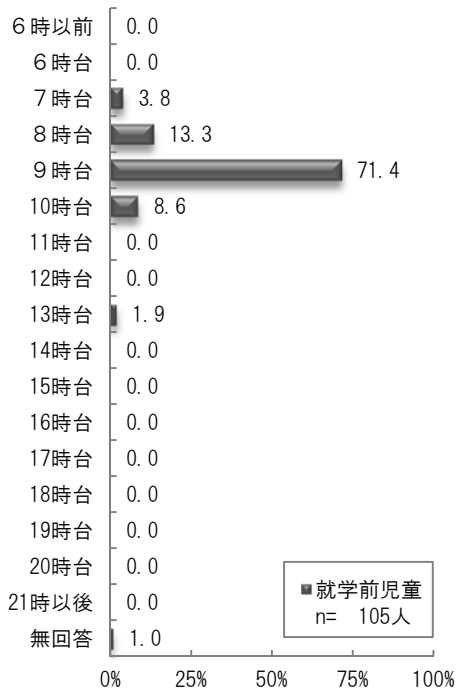
長期休暇中において教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）は、「休みの期間中、週に数日利用したい」（47.3%）、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（9.1%）が希望となっています。

また、希望する開始時間は、「9時台」（71.4%）が最も多く、終了時間は「15時台」（28.6%）、「14時台」（23.8%）、「17時台」（20.0%）の順に希望しています。

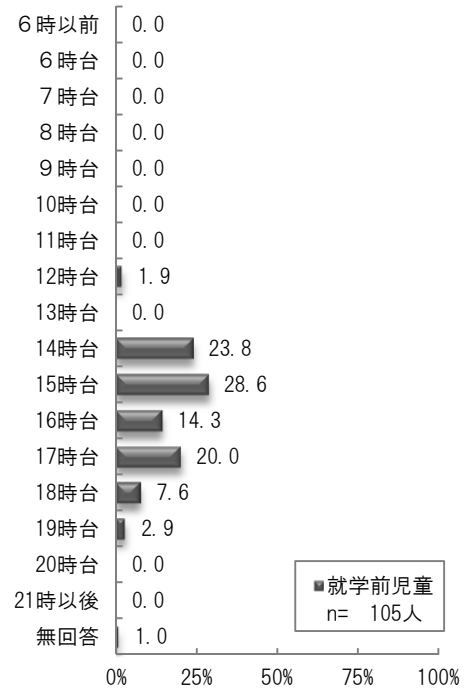
問 21 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）



問 21.1 長期休暇中の希望開始時間

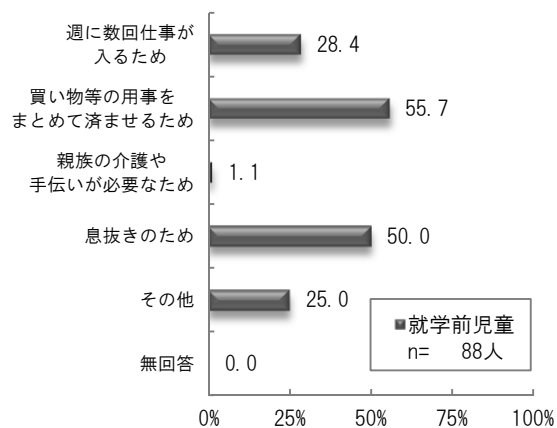


問 21.2 長期休暇中の希望終了時間



長期休暇中において「週に数日利用したい」方の理由は、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(55.7%)、「息抜きのため」(50.0%)、「週に数回仕事が入るため」(28.4%)の順に多くなっています。

問 21-1 長期休暇中「週に数日利用したい」方の理由



(5) 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

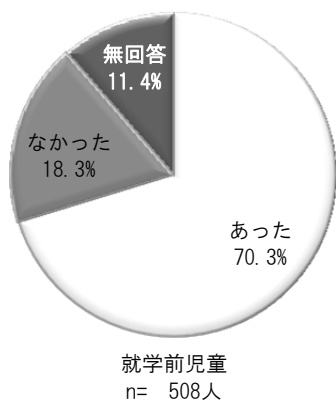
保護者の70.3%の方は、病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった体験をしています。その際の対処方法は、「母親が休んだ」(67.5%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(37.5%)、「父親が休んだ」(31.9%)の順に多くなっています。

母親が休んだ日数は、「10日」(19.1%)、「5日」(14.9%)、「2日」(12.4%)の順、父親では「1日」(28.9%)、「2日」(23.2%)、「5日」(16.7%)の順に多くなっています。

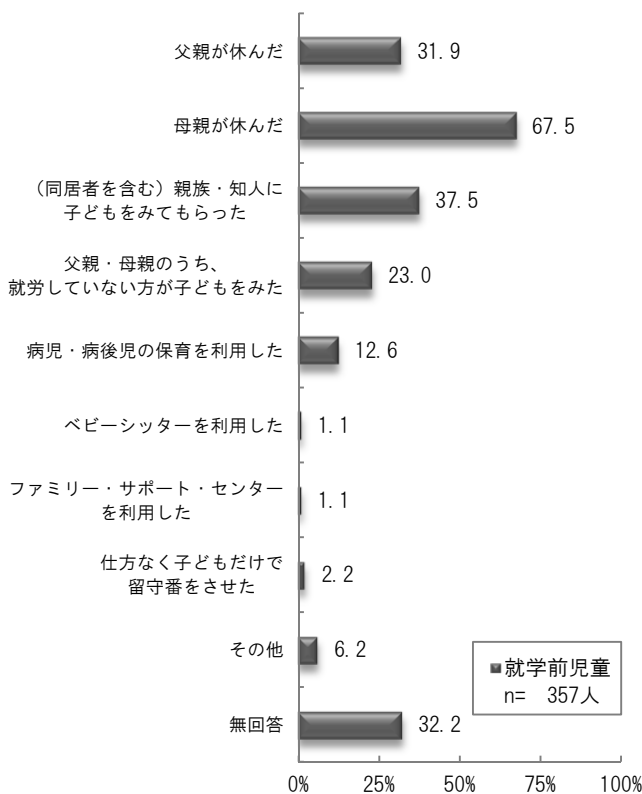
(同居者を含む)親族・知人に預けた日数は、「2日」(20.9%)、「5日」(16.4%)、「3日」(13.9%)の順、就労していない保護者がみた日数は「10日」(18.3%)、「1日」(14.6%)「3日」(13.4%)の順が多くなっています。

病児・病後児保育を利用した日数は、「3日」「4日」各(24.4%)となっています。

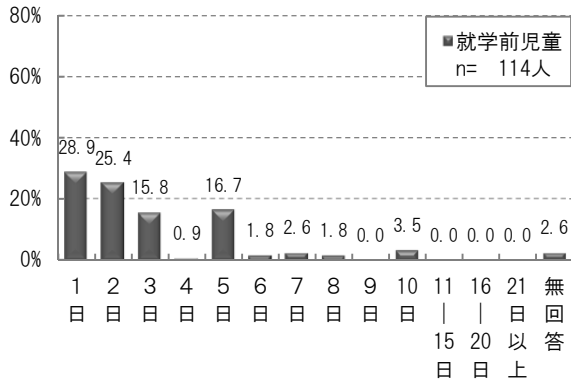
問 22 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無



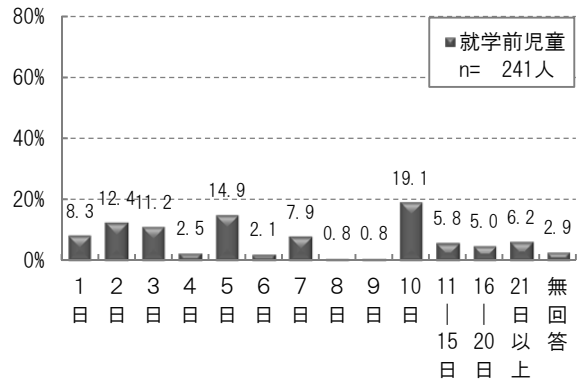
問 22-1 この1年間の対処方法



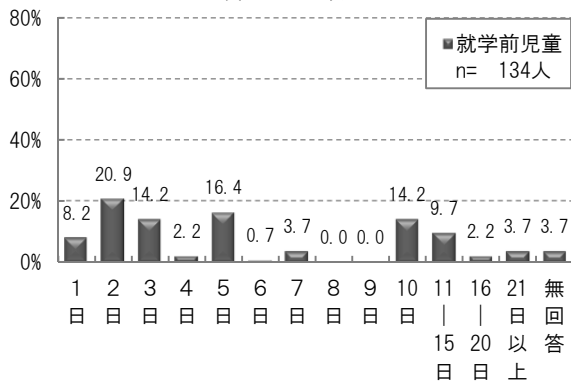
問 22-1.1 父親が休んだ日数



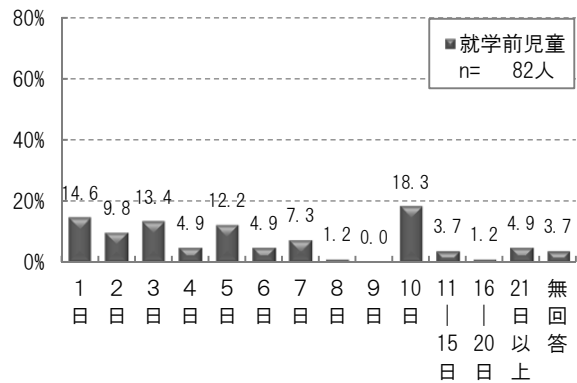
問 22-1.2 母親が休んだ日数



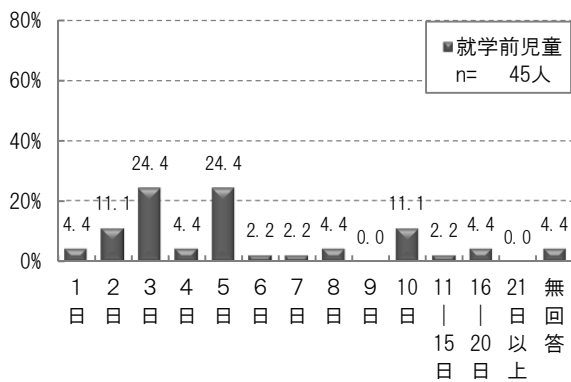
問 22-1.3 (同居者を含む) 親族・知人に預けた日数



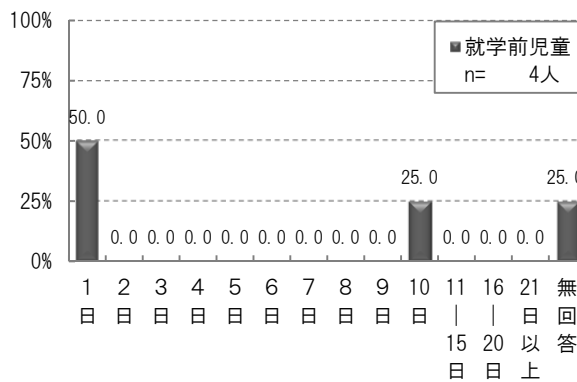
問 22-1.4 就労していない保護者がみた日数



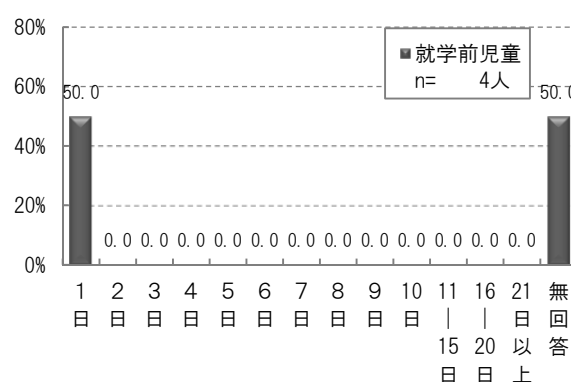
問 22-1.5 病児・病後児保育を利用した日数



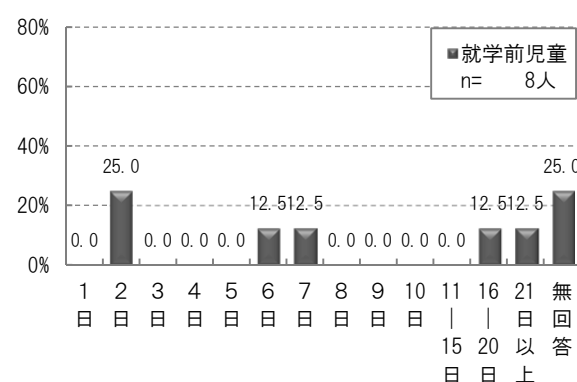
問 22-1.6 ベビーシッターを利用した日数



問 22-1.7 子どもだけで留守番させた日数



問 22-1.8 その他



父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、47.2%の方が希望し、その利用日数は「5日」と「10日」（各 15.3%）となっています。

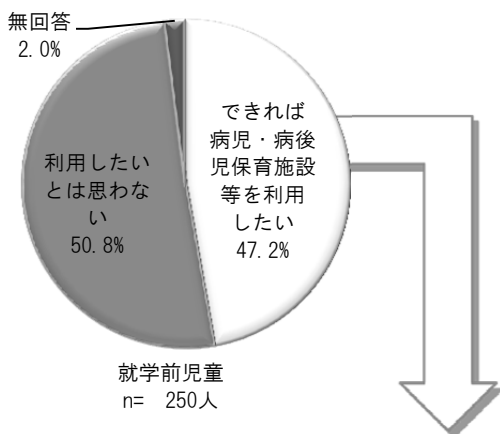
また、子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（79.7%）、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」（59.3%）の順に多くなっています。

利用意向のない方の理由は、「親が仕事を休んで対応する」（48.8%）、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（52.8%）、「利用料がかかる・高い」（28.3%）の順に多くなっています。

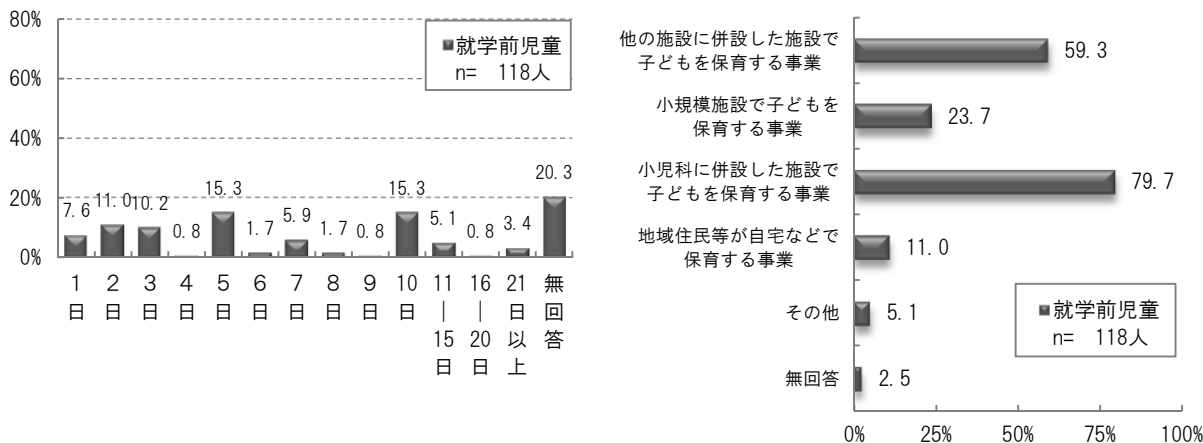
父母が休む以外の対処方法を選んだ方に対して「父母が休んで看たい」という意向をみると、「休んで看ることはどちらかと言えば困難」（33.3%）、「休んで看ることは非常に難しい」（17.5%）となっています。

休んで看ることが非常に難しい理由は、「子どもの看護を理由に休みが取れない」（41.0%）となっています。

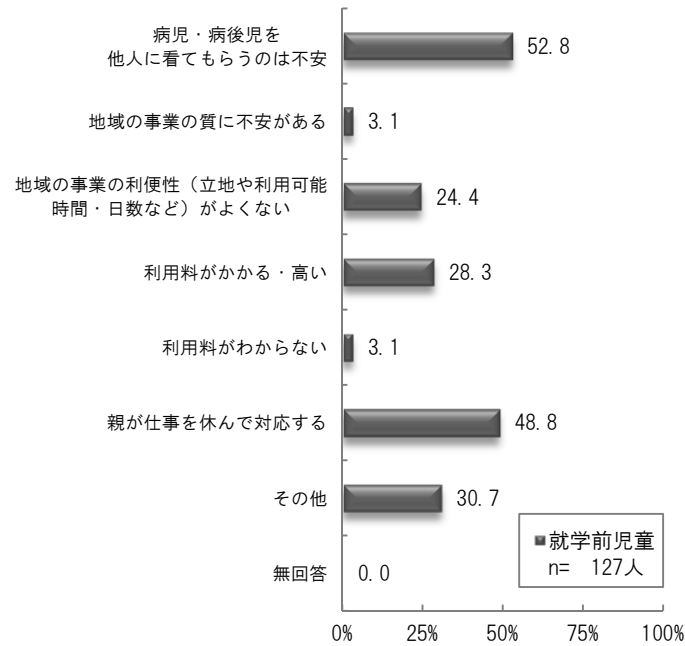
問 22-2 父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設利用意向



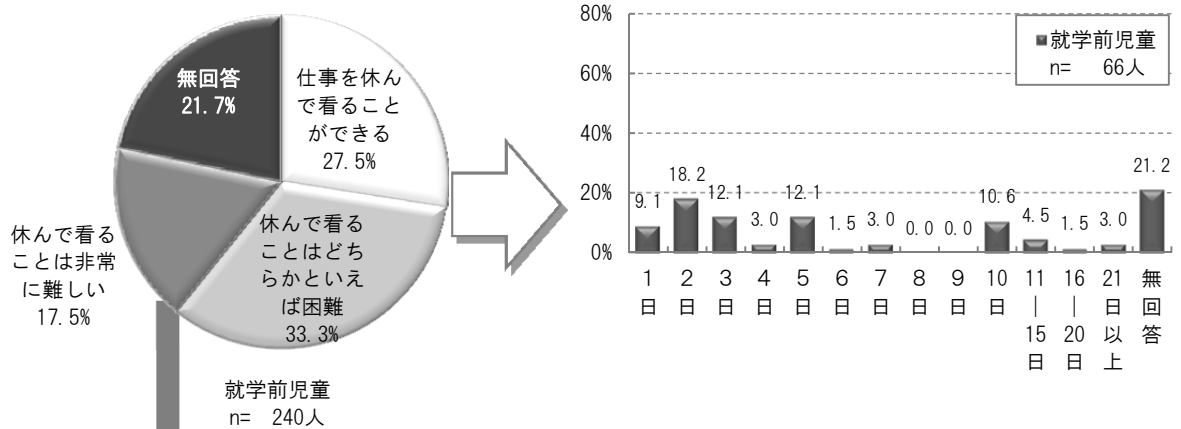
問 22-3 子どもを預ける場合の望ましい希望日数（年間）と事業形態



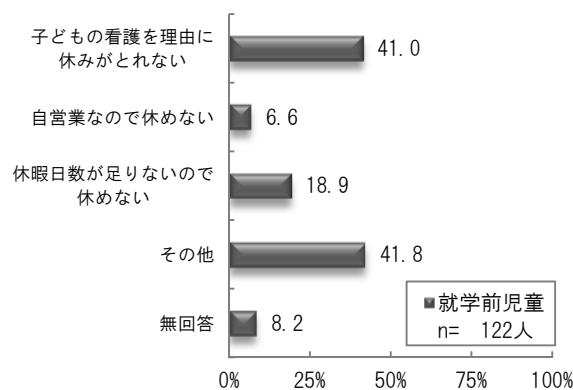
問 22-4 病児・病後児のための保育施設利用意向のない方の理由



問 22-5 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が休んで看たい」意向と希望日数



問 22-6 「仕事を休んで看るとは非常に難しい」の理由



2 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向

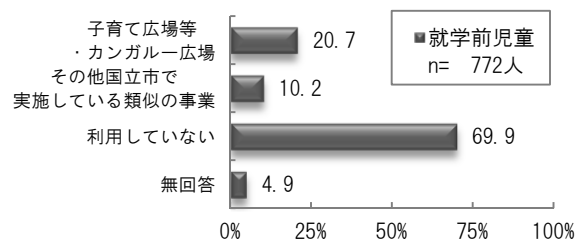
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について

地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「利用していない」(69.9%)が最も多く、「子育て広場等・カンガルー広場」(20.7%)となっています。

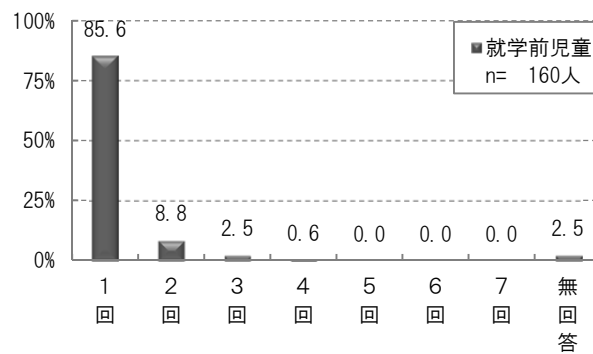
地域子育て支援拠点事業の利用回数(1週あたり)は、「1回」(85.6%)が最も多くなっています。

その他の類似事業では、「1回」(83.5%)が最も多くなっています。

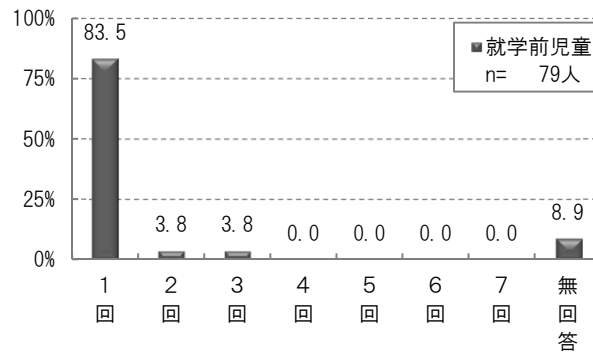
問 17.1 地域子育て支援拠点事業の利用状況



問 17.1.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数(1週あたり)



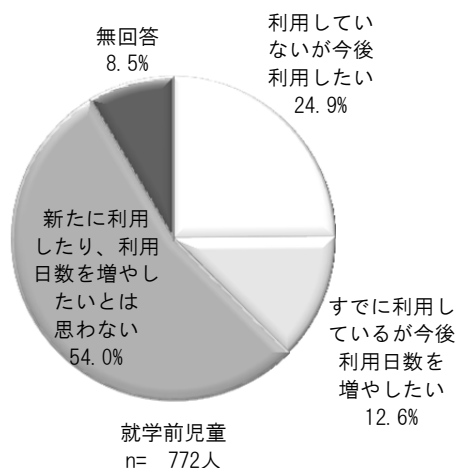
問 17.1.2 その他類似事業の利用回数(1週あたり)



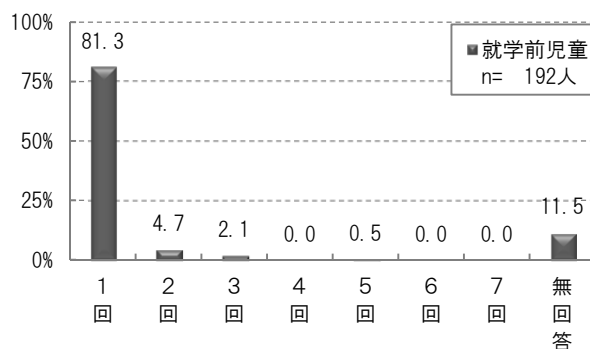
未利用者は、「利用していないが今後利用したい」(24.9%)、利用者は「すでに利用しているが今後利用日数を増やしたい」(12.6%)のみとなり、現状維持の利用が多くなっています。

未利用者の希望利用回数(1週当たり)は、「1回」(81.3%)が最も多くなっています。また、利用者の増やしたい利用回数(1週当たり)は、「1回」(66.0%)、「2回」(23.7%)の順に多くなっています。

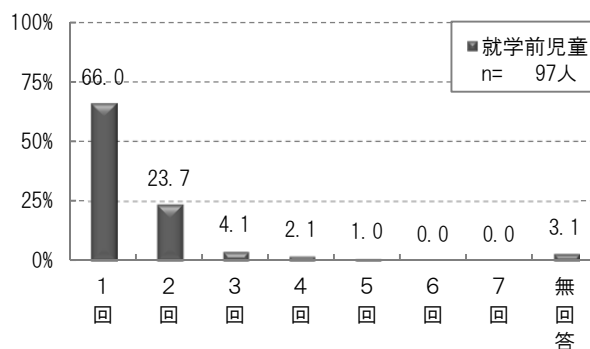
問 18 未利用者・利用者の利用及び利用回数増加希望



問 18.1 未利用者の希望利用回数(1週当たり)



問 18.2 既利用者の増やしたい利用回数(1週当たり)

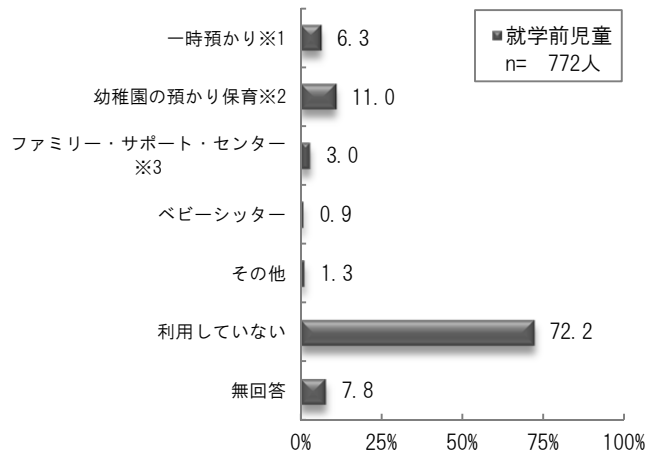


(2) 不定期の一時保育の利用について

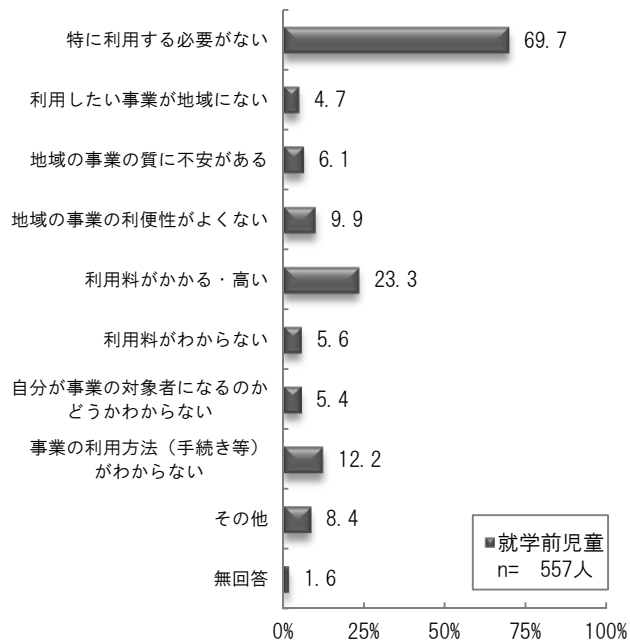
一時保育の利用状況をみると、「利用していない」(72.2%)、「幼稚園の預かり保育」(11.0%)、「一時預かり」(6.3%)となっています。

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」(69.7%)、「利用料がかかる・高い」(23.3%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(12.2%)の順に多くなっています。

問 23 一時保育事業の利用状況



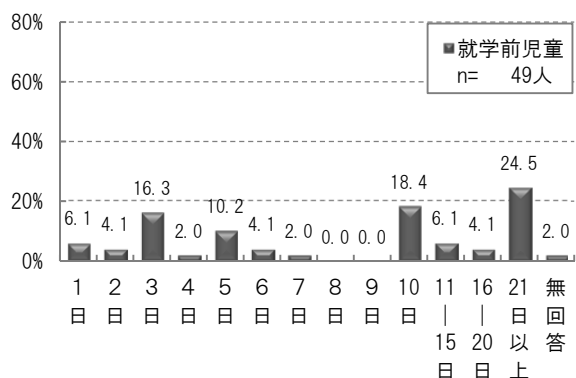
問 23-1 一時保育を利用していない理由



※1 一時預かり：私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業
 ※2 幼稚園の預かり保育：通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ
 ※3 ファミリー・サポート・センター：地域住民が子どもを預かる事業

事業ごとに利用日数をみると、一時預かりは、年間「21日以上」(24.5%)、「10日」(18.4%)、「3日」(16.3%)の順に多くなっています。

問 23.1 一時預かり (年間)

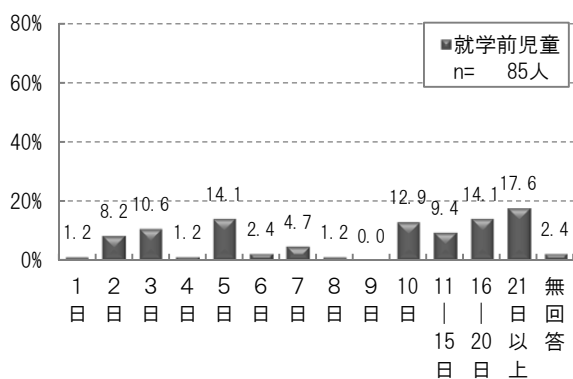


幼稚園の預かり保育は、年間「21日以上」(17.6%)、「16~20日」(14.1%)、「5日」(14.1%)の順に多くなっています。

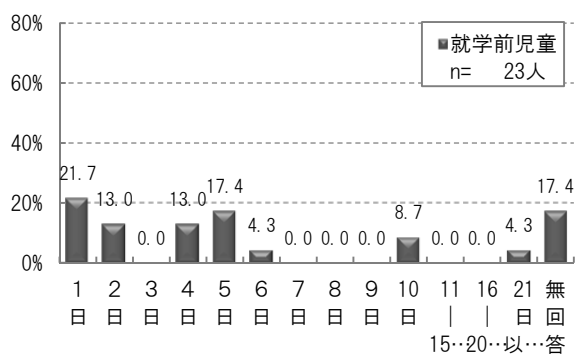
ファミリー・サポート・センターは、「1日」(21.7%)、「5日」(17.4%)となっています。

ベビーシッターは、「5日」「11~15日」(各 28.6%)となっています。

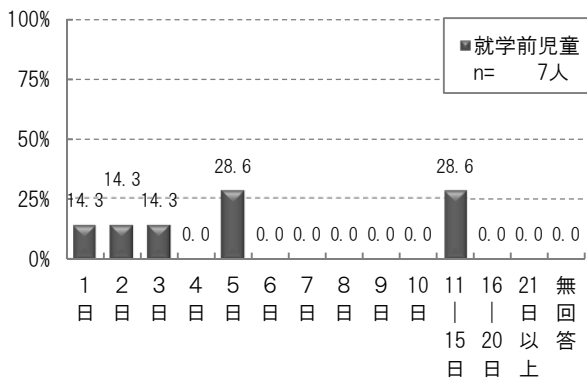
問 23.2 幼稚園の預かり保育 (年間)



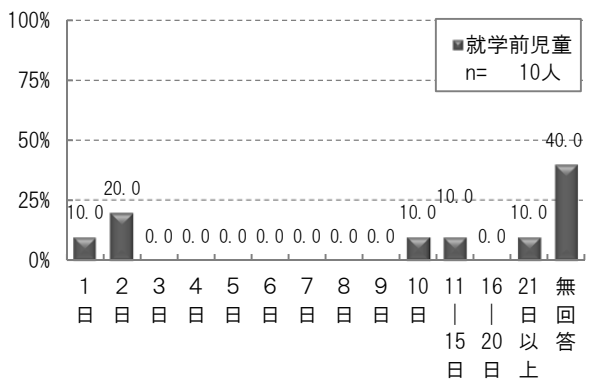
問 23.3 ファミリー・サポート・センター (年間)



問 23.4 ベビーシッター（年間）



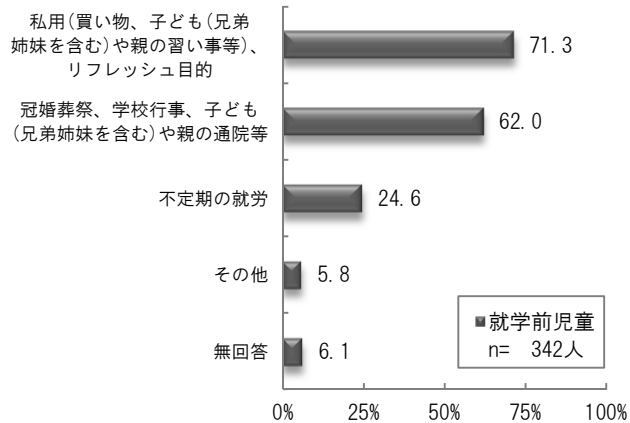
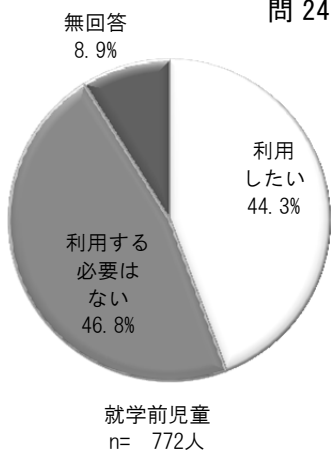
問 23.5 その他（年間）



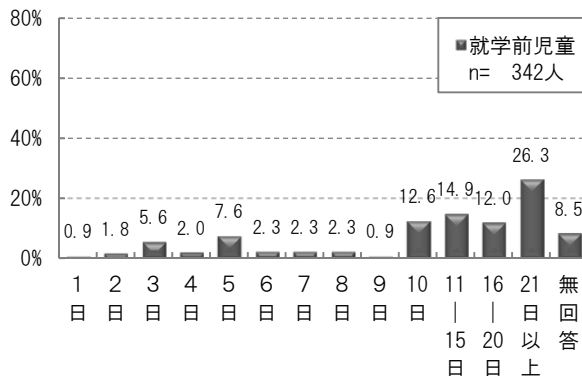
一時保育事業の利用希望とその目的は、「利用する必要はない」(46.8%)、「利用したい」(44.3%)となっています。利用したい方の利用目的は、「私用、リフレッシュ目的」(71.3%)、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(62.0%)、「不規則の就労」(24.6%)の順に多くなっています。

利用希望日数は、「21日以上」(26.3%)が最も多く、「11～15日」(14.9%)、「10日」(12.6%)、「16～20日」(12.0%)となっています。

問 24 一時保育事業の利用希望とその目的



問 24.1 利用希望年間合計日数

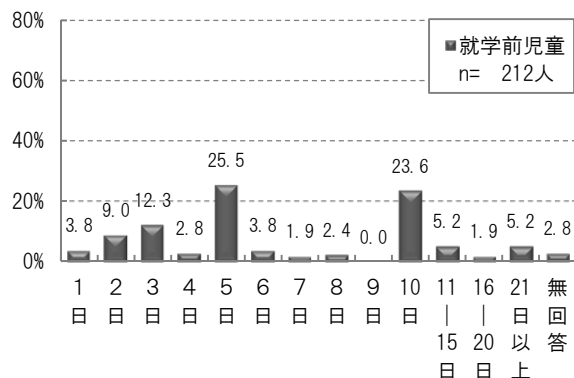
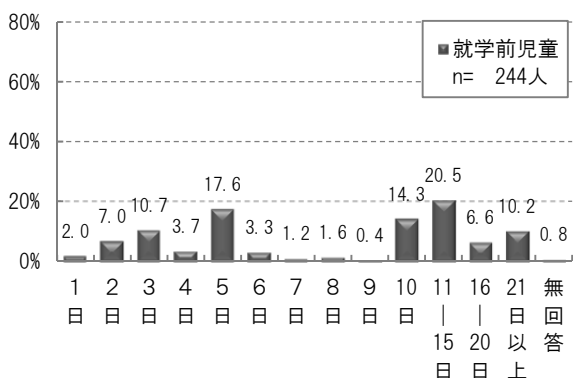


目的ごとの希望利用日数をみると、私用・リフレッシュ目的は、年間「11-15日」(20.5%)、「5日」(17.6%)、「10日」(14.3%)、「21日以上」(10.2%)の順に多くなっています。

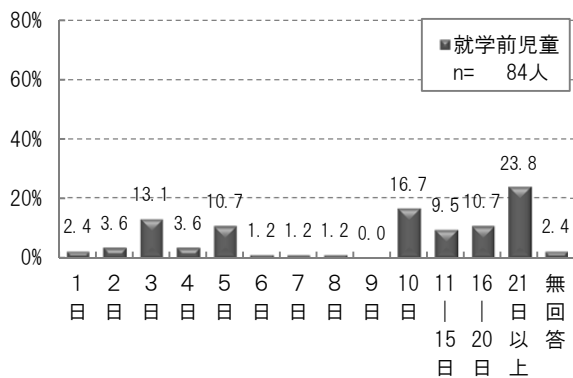
冠婚葬祭、学校行事、家族の通院目的は、「5日」(25.5%)、「10日」(23.6%)の順に多くなっています。

不定期の就労目的は、「21日以上」(23.8%)、「10日」(16.7%)の順に多くなっています。

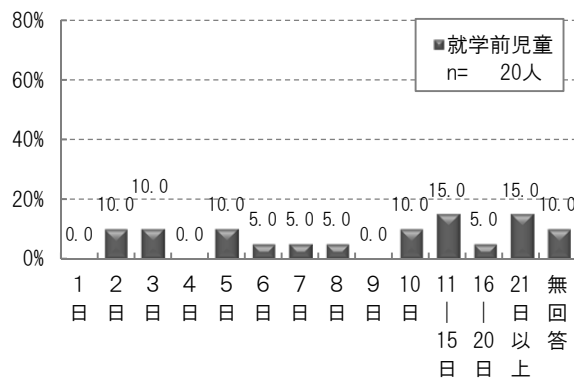
問 24.1. ① 私用、リフレッシュ目的 問 24.1. ② 冠婚葬祭、学校行事、家族の通院目的



問 24.1. ③ 不定期の就労目的

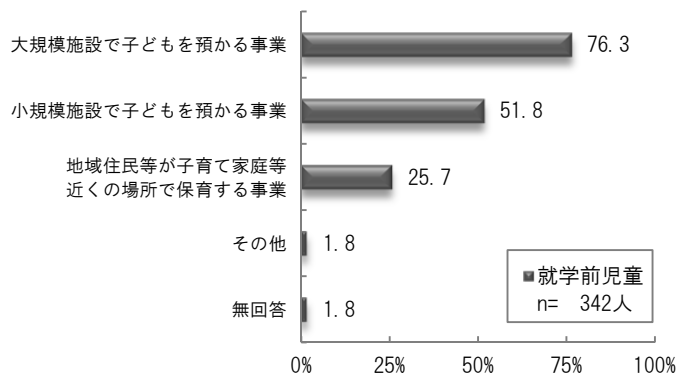


問 24.1. ④ その他の目的



子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、「大規模施設で子供を預かる事業」(76.3%)、「小規模施設で子供を預かる事業」(51.8%)、「地域住民等が子育て家庭等近くで保育する事業」(25.7%)の順に多くなっています。

問 24-1 子どもを預ける場合の望ましい事業形態

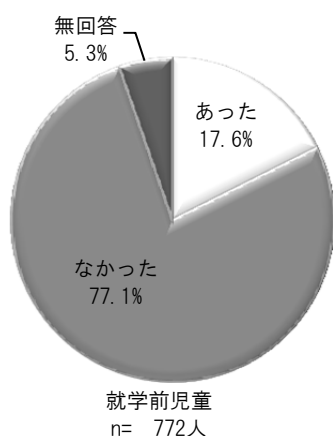


(3) 宿泊を伴う一時保育の利用について

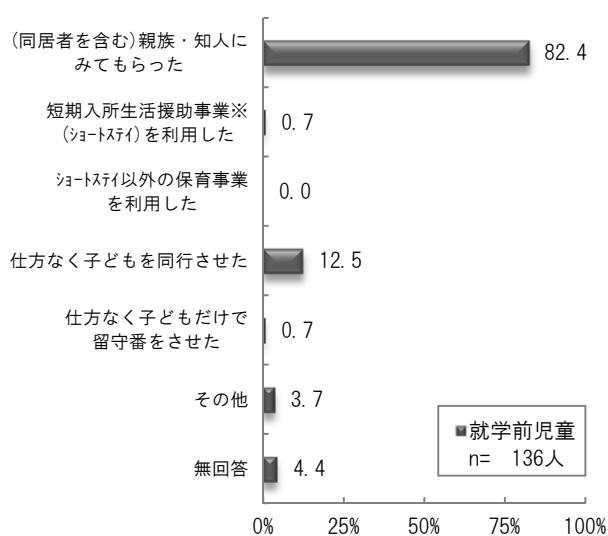
この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けた方は、17.6%となっています。

この対処方法は、「(同居人を含む)親族・知人にみてもらった」(82.4%)が最も多くなっています。また、親族・知人にみてもらった場合の困難度は、「どちらかという困難」(40.2)、「非常に困難」(17.0%)となっています。

問 25 この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無

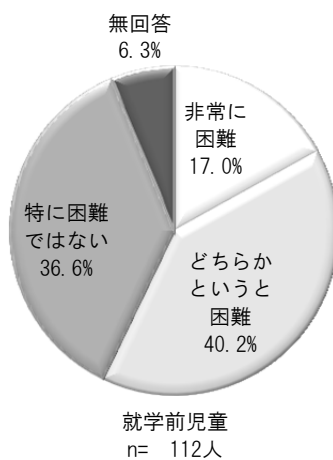


問 25.1 1年間の対処方法



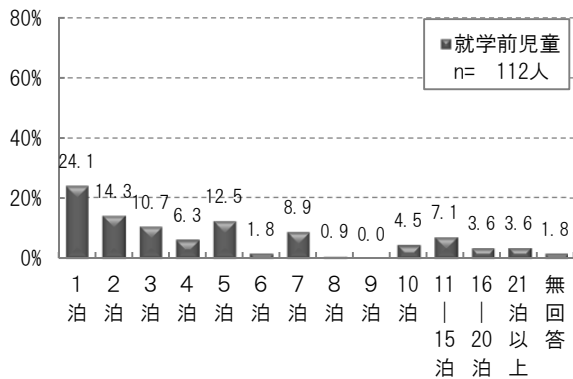
※短期入所生活援助事業：児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業

問 25-1 親族・知人にみてもらった場合の困難度

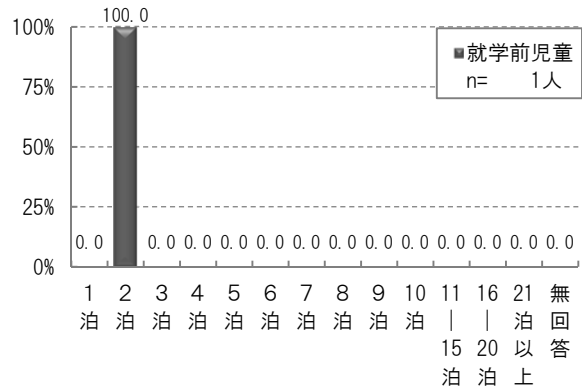


(同居者を含む)親族・知人に預けた泊数は、「1泊」(24.1%)、「2泊」(14.3%)、「5泊」(12.5%)の順になっています。
 ショートステイを利用(1人)した泊数は、「2泊」となっています。
 ショートステイ以外を利用した泊数は「21泊以上」(33.3%)となっています。
 子どもを同行させた泊数は、「1泊」「2泊」各(29.4%)となっています。

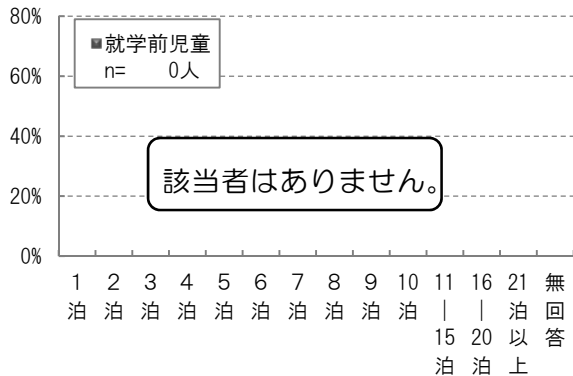
問 25.1.① (同居者を含む)親族・知人に預けた泊数



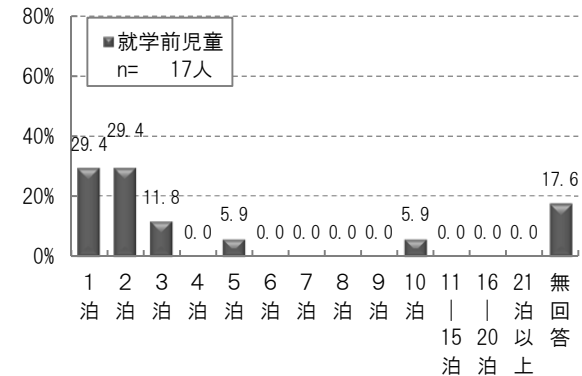
問 25.1.② ショートステイを利用した泊数



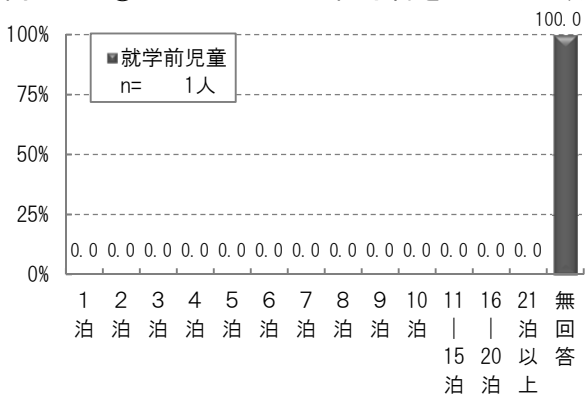
問 25.1.③ ショートステイ以外を利用した泊数



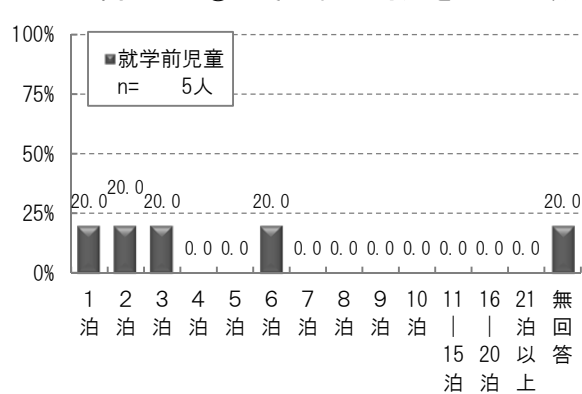
問 25.1.④ 子どもを同行させた泊数



問 25.1.⑤ 子どもだけで留守番をさせた泊数



問 25.1.⑥ その他の対処をした泊数



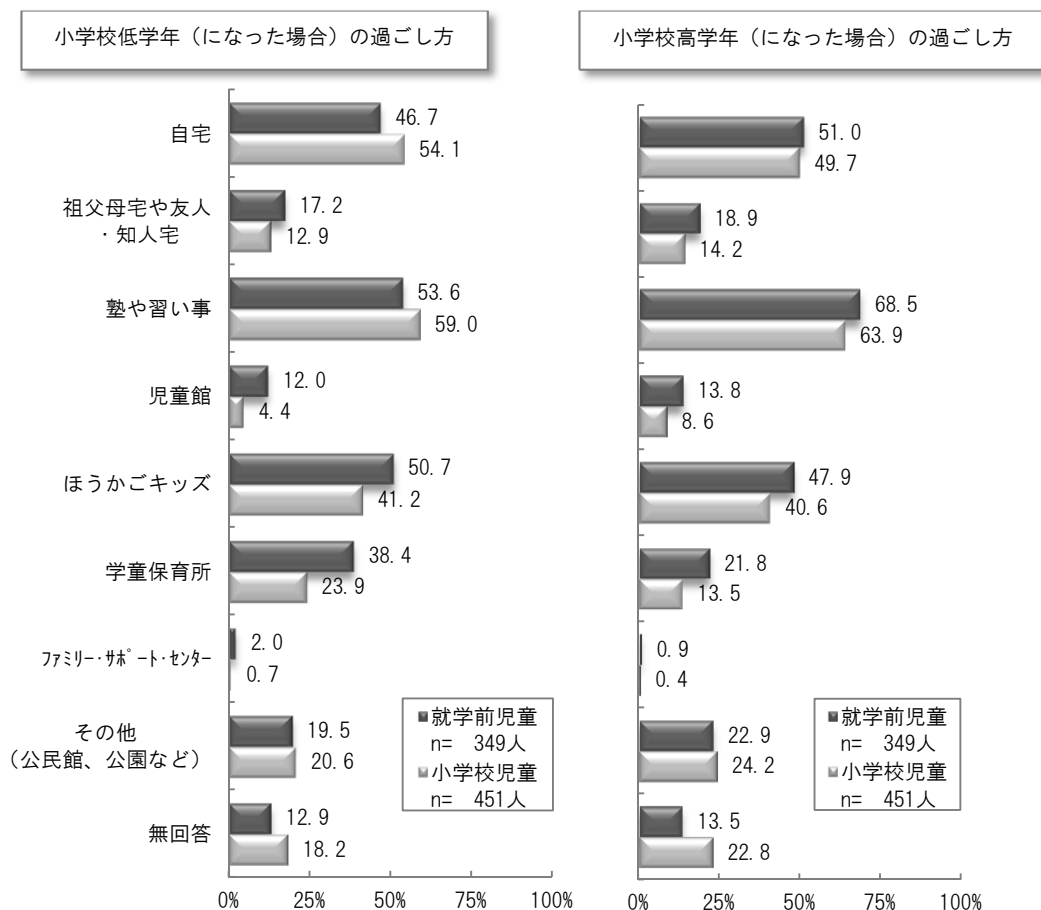
3 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の過ごし方について

放課後の過ごし方をみると、就学前児童では小学校低学年のうち「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(53.6%)、「ほうかごキッズ」(50.7%)、「自宅」(46.7%)の順に希望しています。一方、小学校児童の小学校低学年の希望では、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(59.0%)、「自宅」(54.1%)、「ほうかごキッズ」(41.2%)となっています。

また、就学前児童からの希望では小学校高学年になっても「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(68.5%)、「自宅」(51.0%)、「ほうかごキッズ」(47.9%)、小学校児童も同じ傾向となっています。

問 26・問 27[問 10・問 11] 放課後の過ごし方の希望



※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生、「小学校児童」は1～6年生の意味です。

保護者が放課後を過ごさせたい具体的な場所と日数をみると、就学前児童、小学校児童ともに「自宅」では「2日」（低学年時期 29.4%、26.6%・高学年時期 28.1%、31.7%）が最も多く、「1日」が差がなく続いています。

祖父母宅や友人・知人宅」では、「1日」（低学年時期 51.7%、55.2%・高学年時期 51.5%、50.0%）が最も多くなっています。

「塾や習い事」では、低学年・高学年の時期ともに「1～3日」という回答が多くを占めています。

「児童館」と「ほうかごキッズ」では、「2日」（低学年時期 41.2%、63.4%、高学年時期 35.9%、56.3%）が多くなっています。

「学童保育」では、「5日」（低学年時期 51.5%、53.7%・高学年時期 38.2%、44.3%）が最も多くなっています。

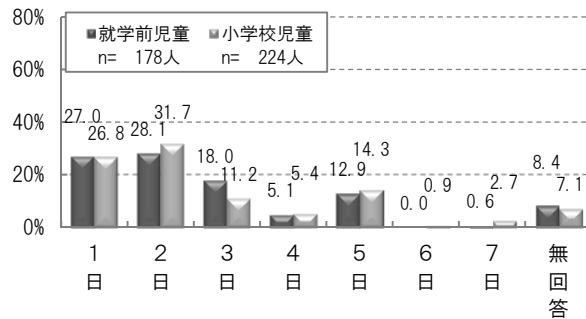
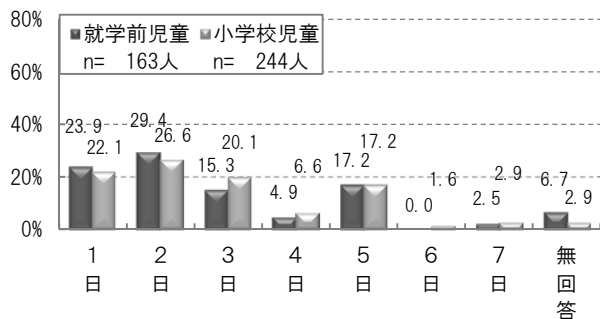
その他（公民館、公園など）では「1日」～「3日」が多くなっています。

問 25・問 26[問 10・問 11] 放課後の過ごし方の希望日数
 (※小学生は現状または希望する日数)

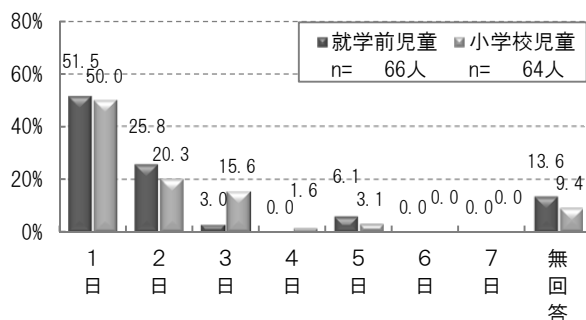
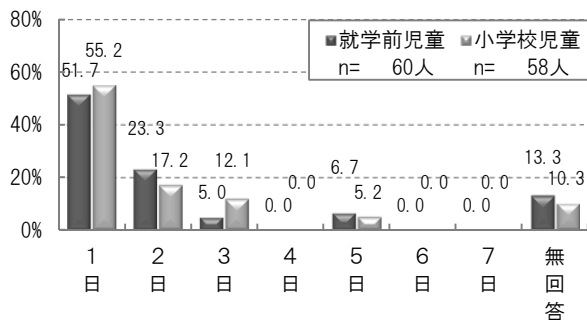
小学校低学年（になった場合）の過ごし方

小学校高学年（になった場合）の過ごし方

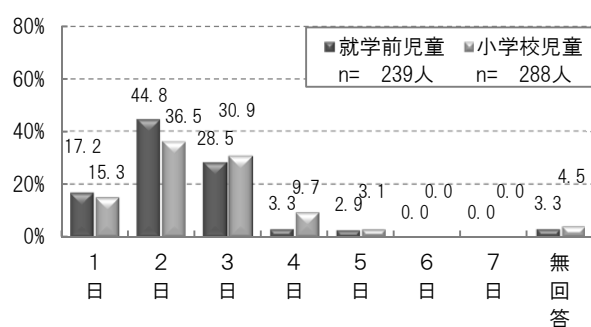
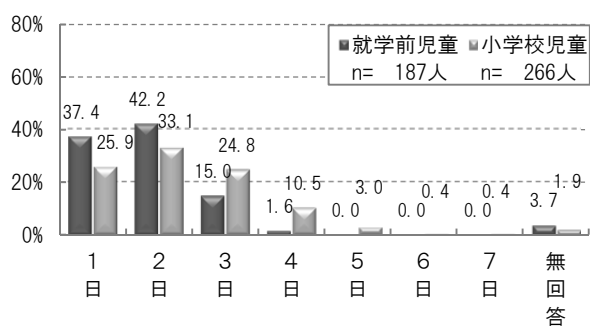
自宅



祖父母宅や友人・知人宅



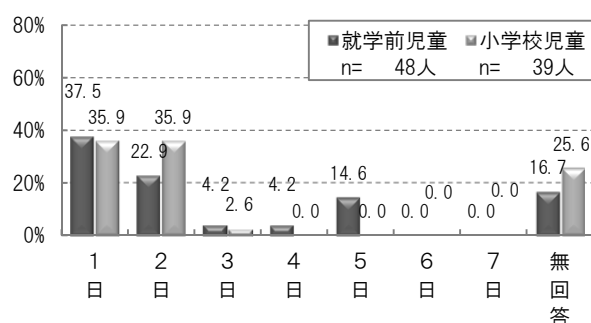
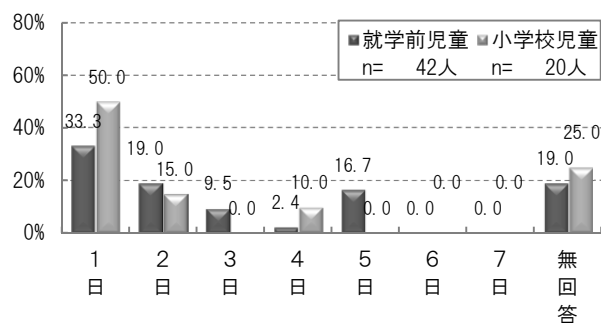
塾や習い事



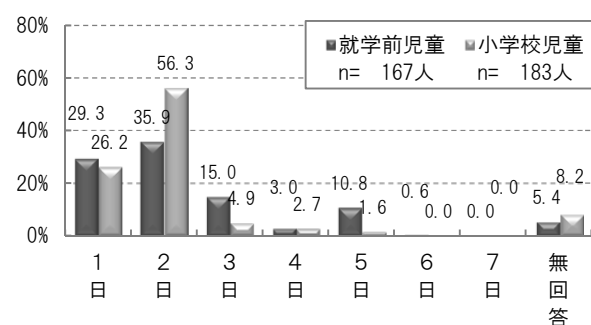
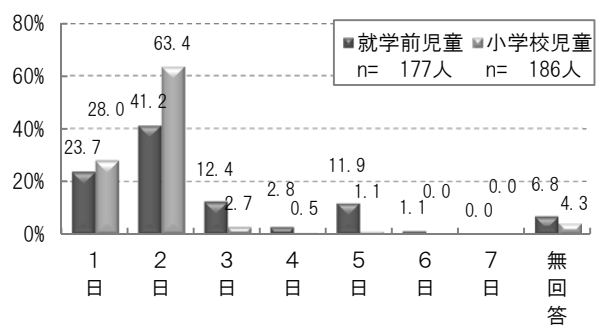
小学校低学年（になった場合）の過ごし方

小学校高学年（になった場合）の過ごし方

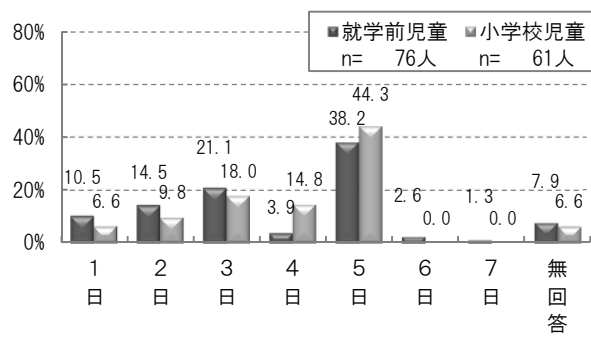
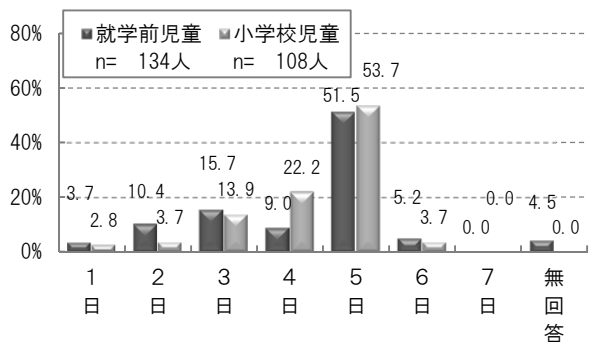
児童館



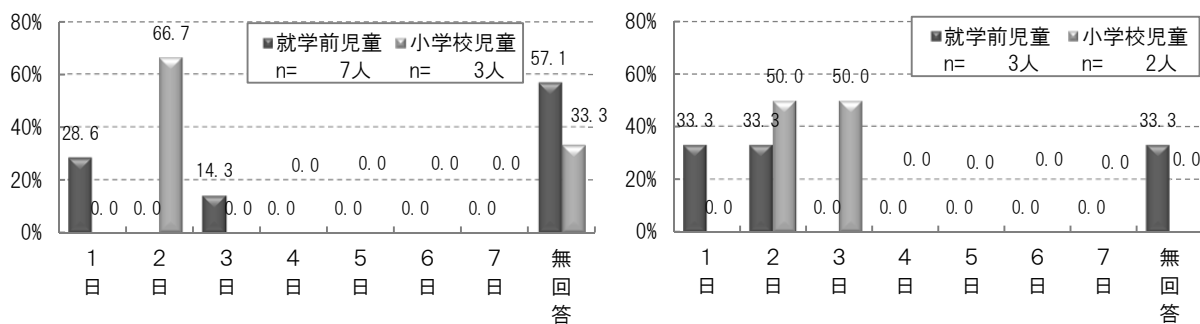
ほうかごキッズ



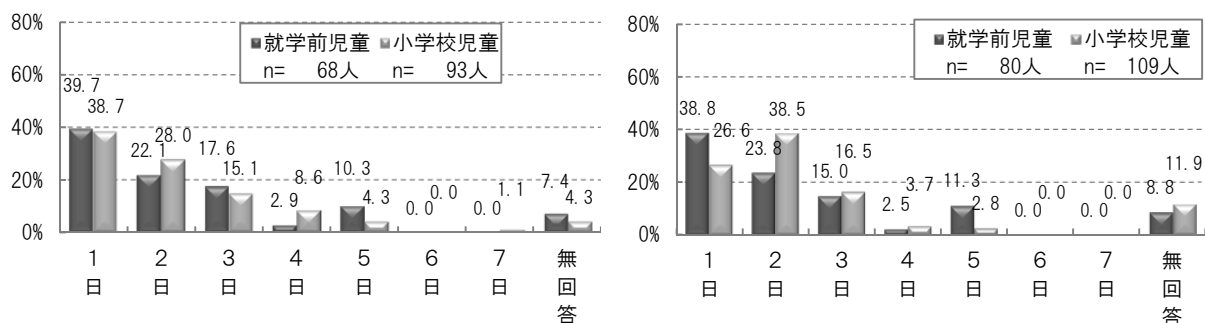
学童保育所



ファミリー・サポート・センター事業



その他（公民館、公園など）



下校時から放課後児童クラブを何時まで利用したいかをみると、就学前児童では低学年の時期で「18時台」(37.3%)、「17時台」(27.6%)、「19時台」(18.7%)の順、高学年の時期で「17時台」(32.9%)、「18時台」(30.3%)、「19時台」(23.7%)の順に希望しています。

小学校児童では低学年の時期で「17時台」(38.9%)、「18時台」(26.9%)、「16時台」(18.5%)の順、高学年の時期で「17時台」(32.8%)、「18時台」(27.9%)、となっています。

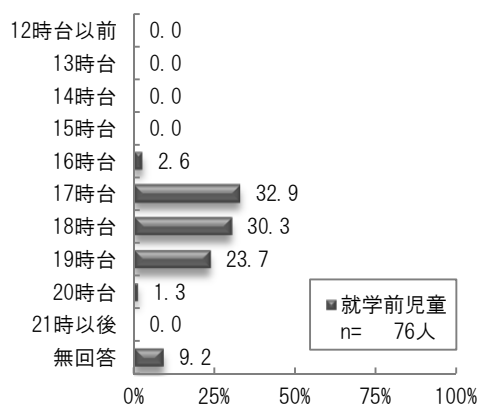
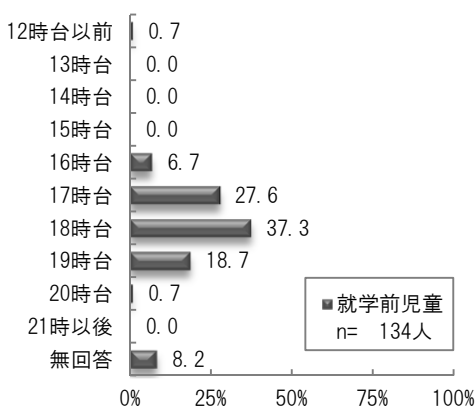
「放課後児童クラブ」を選んだ場合の具体的な利用希望時間（就学前児童の希望）

【小学校低学年の時期】

【小学校高学年の時期】

問 26. 6. 1 下校時からの利用希望時刻

問 27. 6. 1 下校時からの利用希望時刻



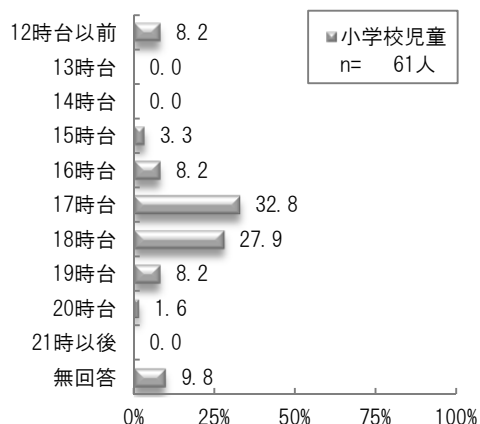
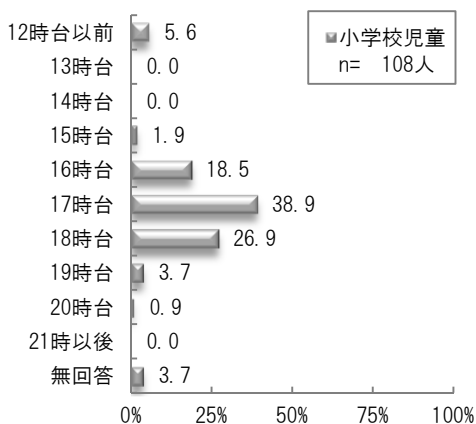
「放課後児童クラブ」を選んだ場合の具体的な利用希望時間（小学校児童の希望）

【小学校低学年の時期】

【小学校高学年の時期】

[問 10. 6. 1] 下校時からの利用希望時刻

[問 11. 6. 1] 下校時からの利用希望時刻



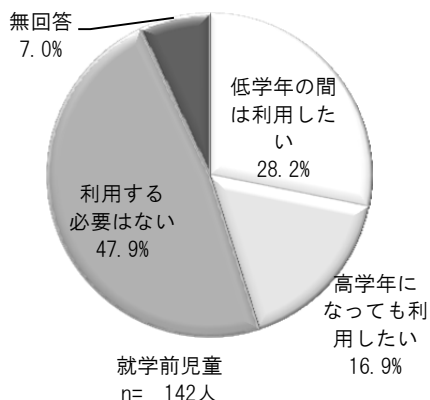
(2) 土曜・休日の放課後児童クラブ利用について

放課後児童クラブの土曜・休日の利用希望をみると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」（土曜 28.2%・休日 10.6%）、「高学年になっても利用したい」（土曜 16.9%・休日 7.7%）、「利用する必要はない」（土曜 47.9%・休日 75.4%）となっています。一方、小学校児童では「低学年の間は利用したい」（土曜 11.5%・休日 4.4%）、「高学年になっても利用したい」（土曜 16.8%・休日 8.8%）、「利用する必要はない」（土曜 59.3%・休日 72.6%）となっています。

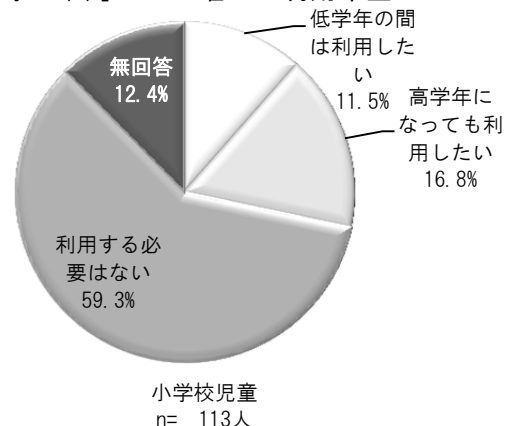
土曜日の希望利用開始時刻は、「8 時台」（就学前児童 64.1%・小学校児童 65.6%）が最も多く、希望利用終了時刻では就学前児童が「18 時台」（39.1%）、小学校児童は「17 時台」（40.6%）が最も多くなっています。

休日の希望利用開始時刻は、「8 時台」（就学前児童 69.2%・小学校児童 46.7%）が最も多く、希望利用終了時刻では就学前児童、小学校児童ともに「18 時台」（46.2%）（40.0%）が最も多くなっています。

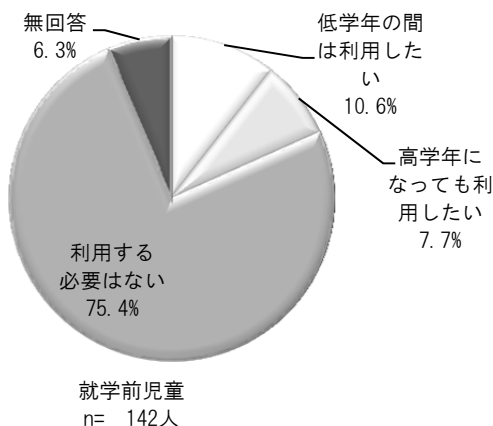
問 28(1) 土曜日の利用希望



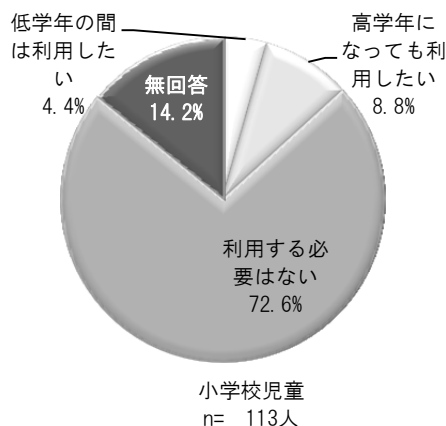
[問 12(1)] 土曜日の利用希望



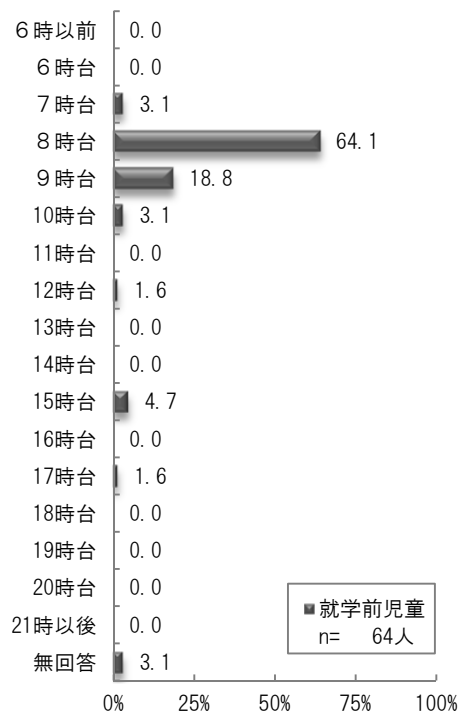
問 28(2) 日曜・祝日の利用希望



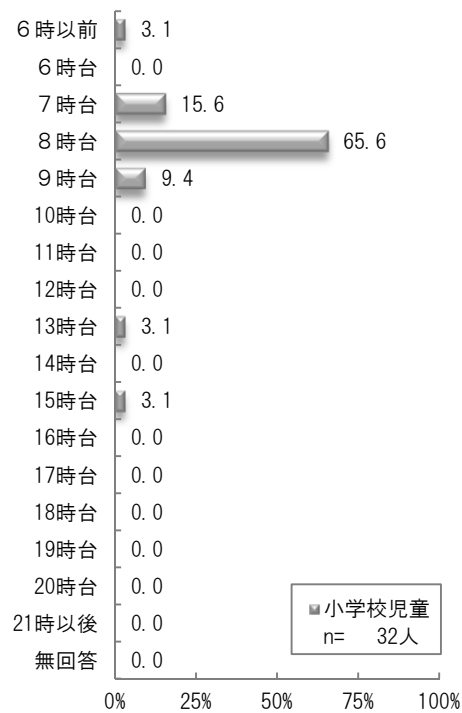
[問 12(2)] 日曜・祝日の利用希望



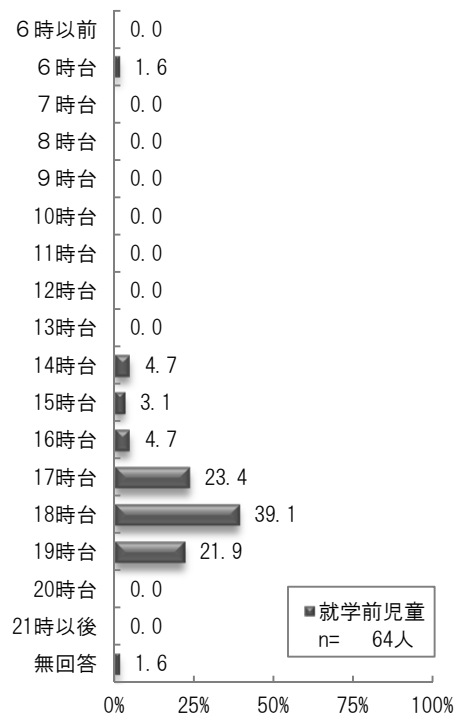
問 28(1).1 土曜日の希望利用開始時間



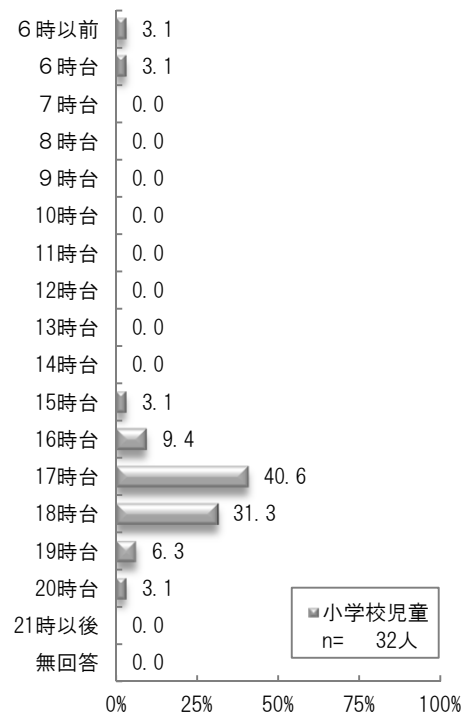
[問 12(1).1] 土曜日の希望利用開始時間



問 28(1).2 土曜日の希望利用終了時間



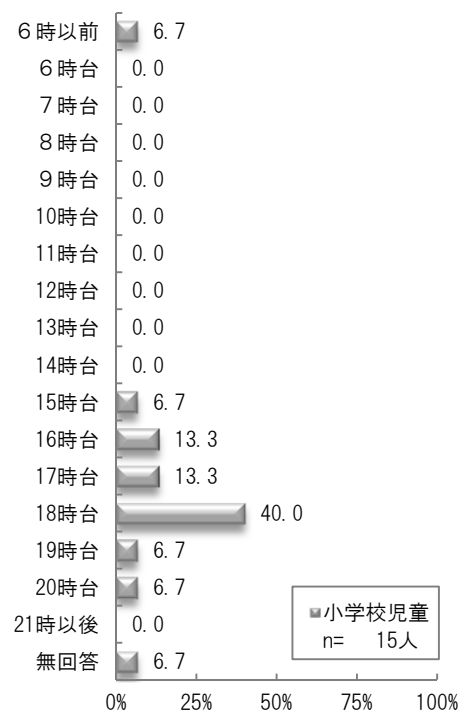
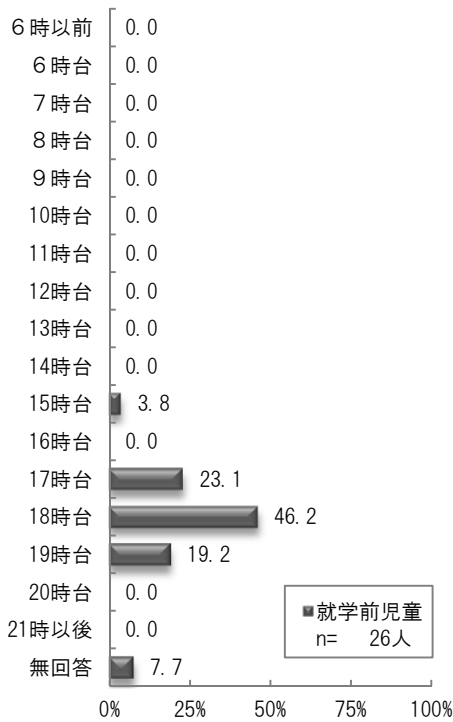
[問 12(1).2] 土曜日の希望利用終了時間



問 28(2).1 日曜・祝日の希望利用開始時間 [問 12(2).1] 日曜・祝日の希望利用開始時間



問 28(2).2 日曜・祝日の希望利用終了時間 [問 12(2).2] 日曜・祝日の希望利用終了時間

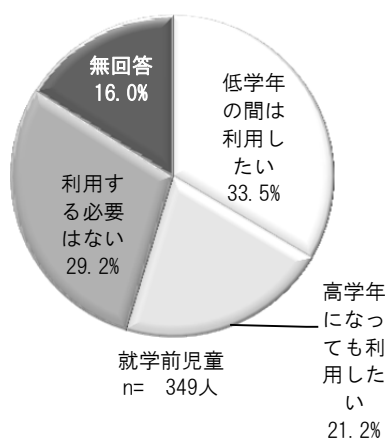


(3) 長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用について

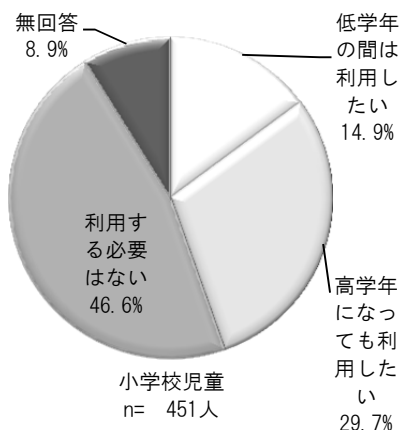
長期休暇中の利用希望をみると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」(33.5%)、「利用する必要はない」(29.2%)、「高学年になっても利用したい」(21.2%)となっています。一方、小学校児童では「利用する必要はない」(46.6%)、「高学年になっても利用したい」(29.7%)、「低学年の間は利用したい」(14.9%)小学校児童の希望割合が大きく低下しています。

希望利用開始時刻は、「8時台」(就学前児童 54.5%・小学校児童 60.7%)が最も多く、希望利用終了時刻は「17時台」(就学前児童 31.9%・小学校児童 28.9%)が最も多くなっています。

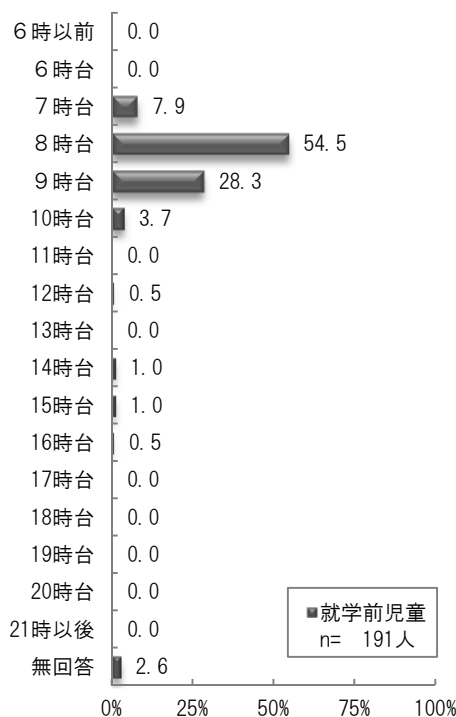
問 29 長期休暇中の利用希望



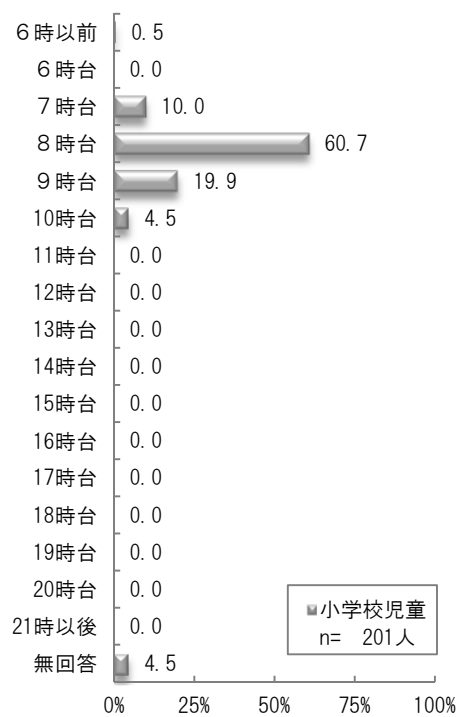
[問 13] 長期休暇中の利用希望



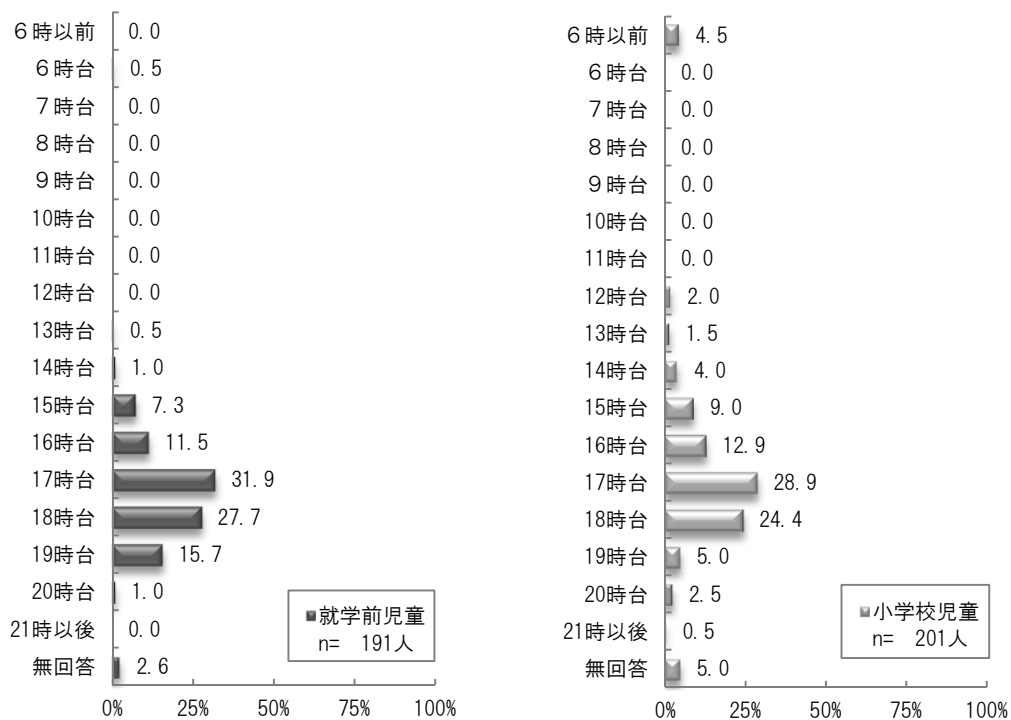
問 29.1 長期休暇中の希望利用開始時間



[問 13.1] 長期休暇中の希望利用開始時間



問 29.2 長期休暇中の希望利用終了時間 [問 13.2] 長期休暇中の希望利用終了時間

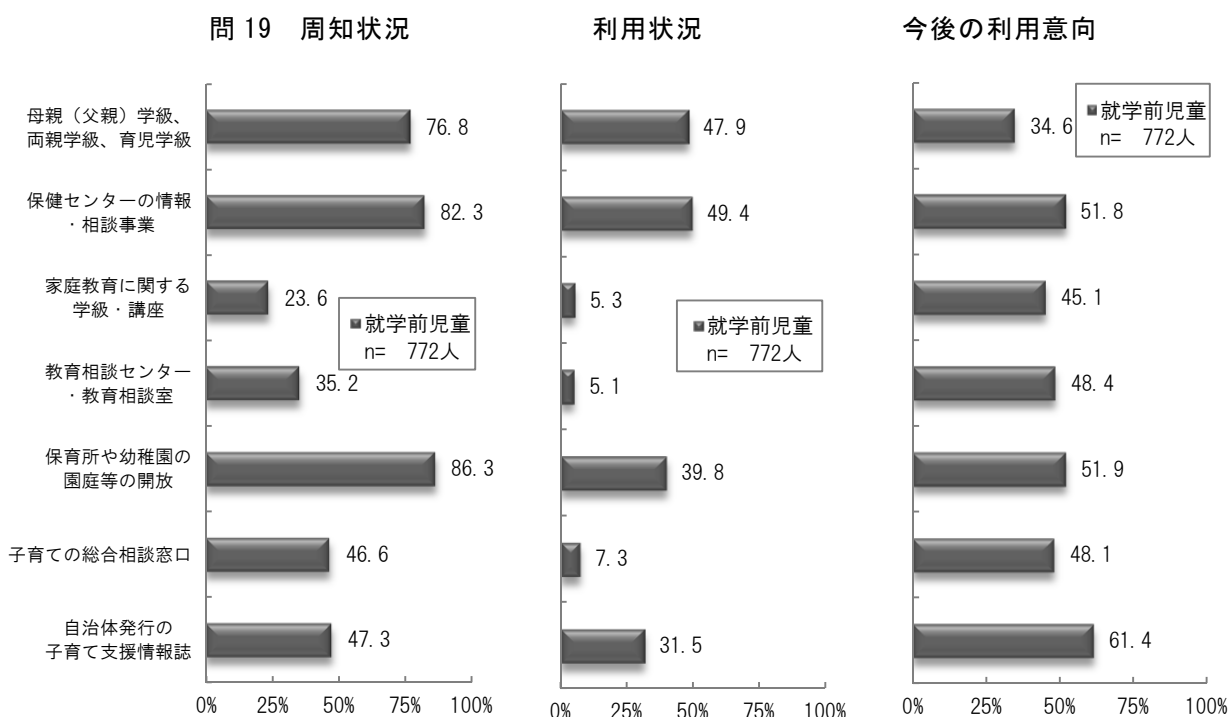


4 子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

子育て支援事業の周知度をみると、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(86.3%)、「保健センターの情報・相談事業」(82.3%)が8割を超えています。

利用状況では、「保健センターの情報・相談事業」(49.4%)「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」(47.9%)が多くなっています。

今後の利用意向は、「自治体発行の子育て支援情報誌」(61.4%)、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(51.9%)、「保健センターの情報・相談事業」(51.8%)が5割を超えて多くなっています。



第 4 章

育児休業制度の利用状況

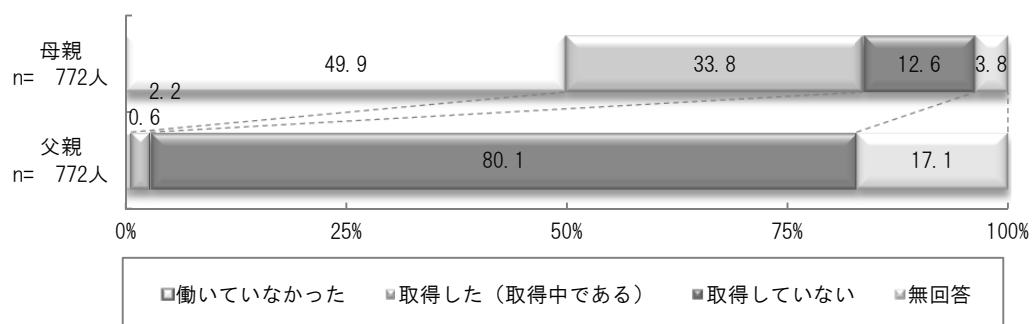
第4章 育児休業制度の利用状況

1 育児休業制度の利用状況

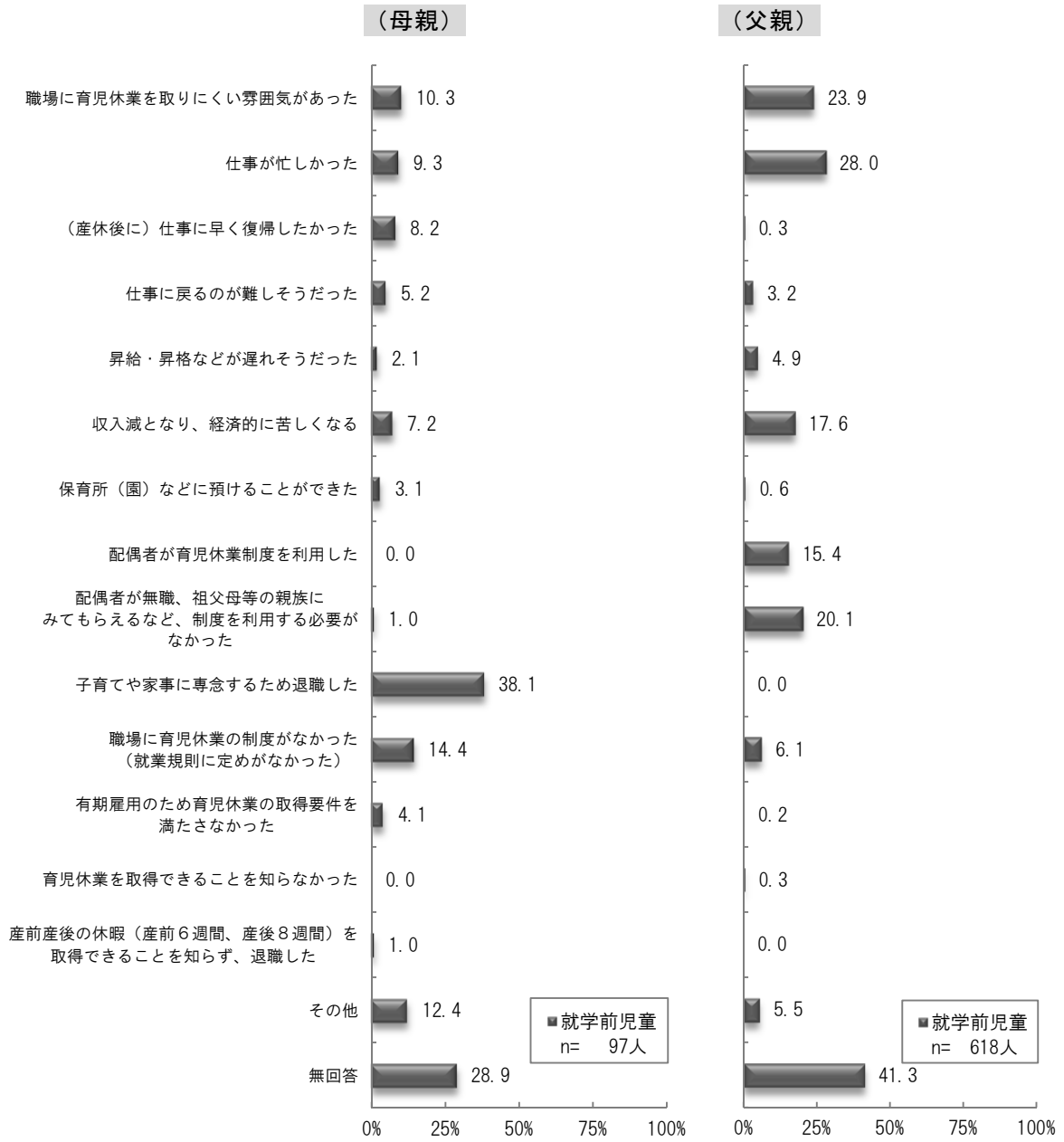
育児休業制度の利用状況をみると、母親は「働いていなかった」（49.9％）が最も多く、次いで「取得した（取得中である）」（33.8％）となっています。父親は「取得した（取得中である）」（0.6％）となり、父親が取得することの難しさが伺えます。

また、育児休業を利用しない理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」（38.1％）、「職場に育児休業の制度がなかった」（14.4％）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（10.3％）の順に多く、一方父親は、「仕事が忙しかった」（28.0％）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（23.9％）、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」（20.1％）など母親の理由との違いが見られます。

問 30 育児休業制度の利用状況

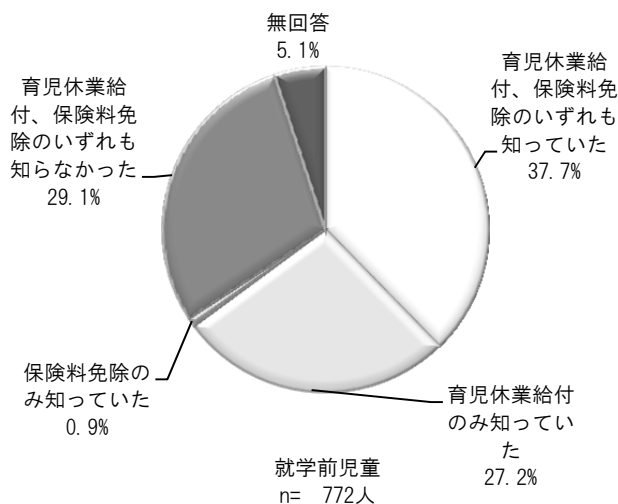


問 30.3 育児休業を利用しない理由



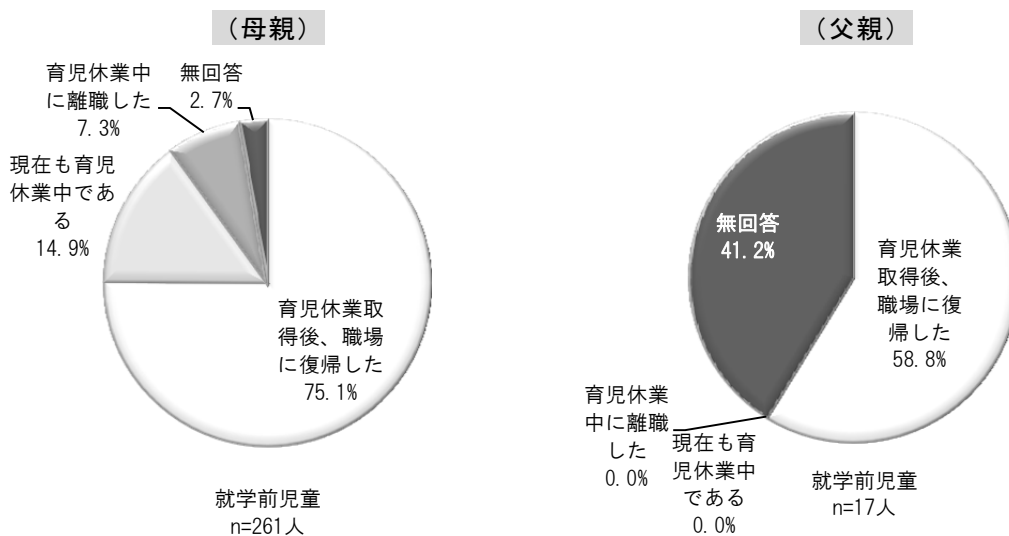
育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」(37.7%)、「育児休業給付のみを知っていた」(27.2%)、「保険料免除のみを知っていた」(0.9%)となっている一方、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」(29.1%)となっています。

問 30-1 育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みを知っている



育児休業取得後の対処をみると、母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」(75.1%)、「現在も育児休業中である」(14.9%)、「育児休業中に離職した」(7.3%)となっています。一方父親は、「育児休業取得後、職場に復帰した」(58.8%)となっています。

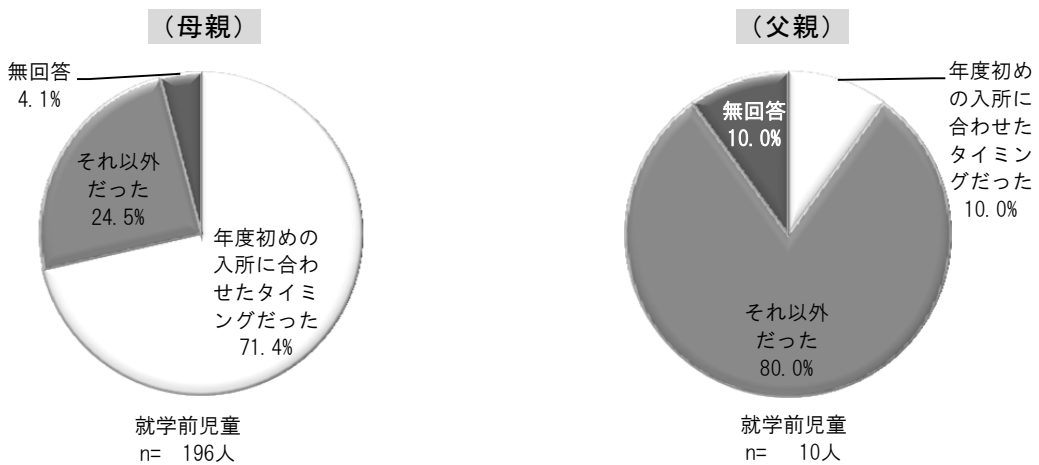
問 30-2 育児休業後の対処



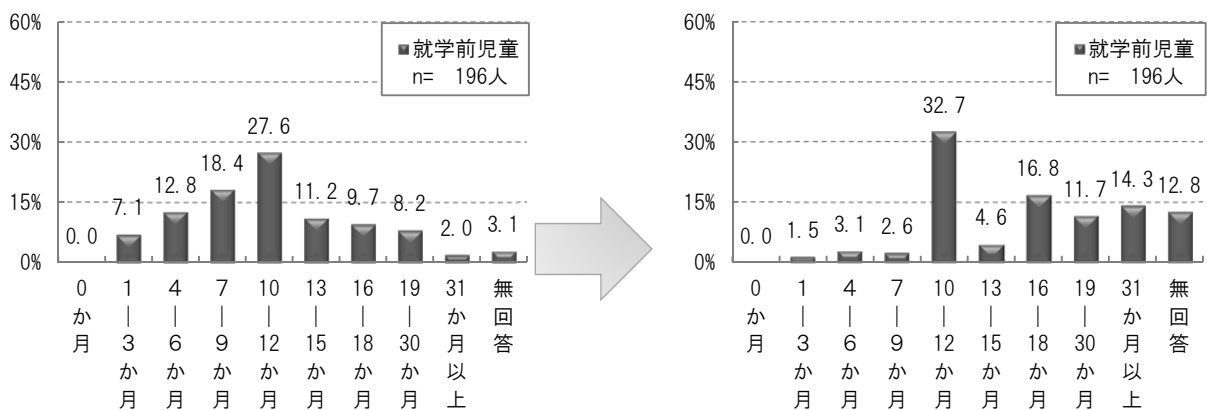
育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親は「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(71.4%)、「それ以外だった」(24.5%)、一方父親は、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(10.0%)、「それ以外だった」(80.0%)となっています。

育児休業から復帰したときの子どもの実年齢をみると、母親は「10—12か月」(27.6%)が最も多く、希望する月齢でも「10—12か月」(32.7%)が最も多くなっています。一方、父親は「1—3か月」(30.0%)が最も多く、希望する月齢では「10—12か月」が多くなっています。

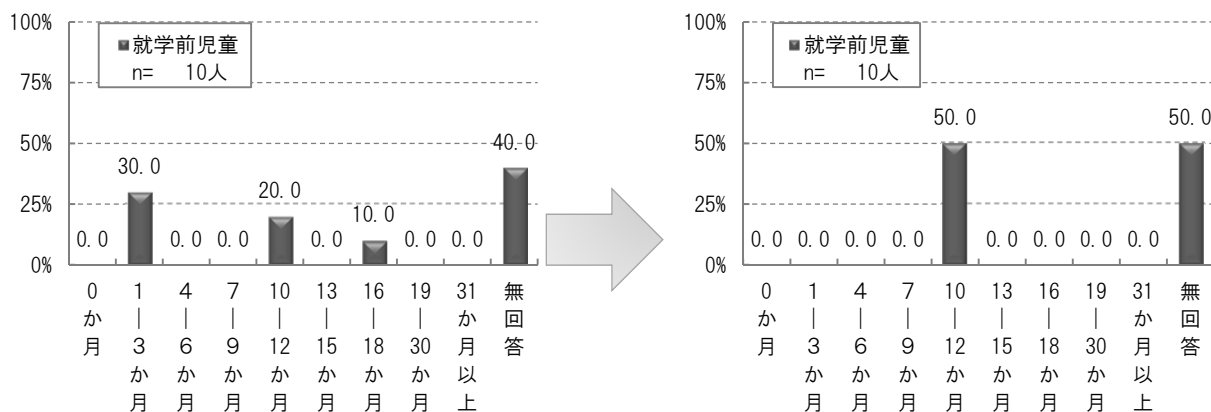
問 30-3 育児休業後に職場へ復帰した時期



問 30-4(1) 育児休業から復帰したときの子どもの実年齢と希望月齢 (母親)



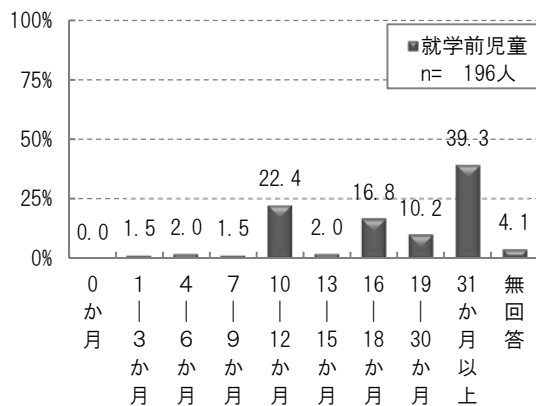
問 30-4(2) 育児休業から復帰したときの子どもの実年齢と希望月年齢（父親）



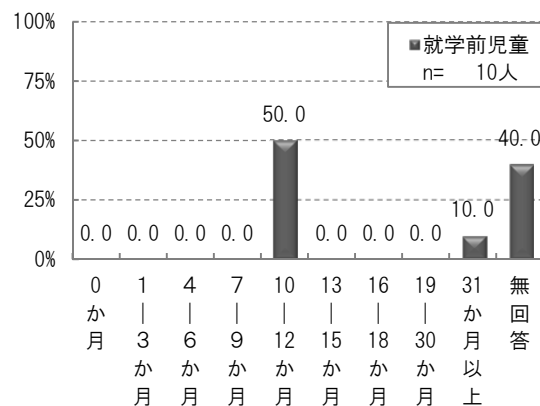
3歳までの育児休業制度があった場合の子どもの希望月年齢について、母親は「31か月以上」（39.3%）が最も多く、父親は「10-12 か月」（50.0%）が多くなっています。

問 30-5 3歳までの育児休業があった場合の子どもの希望月年齢

（母親）



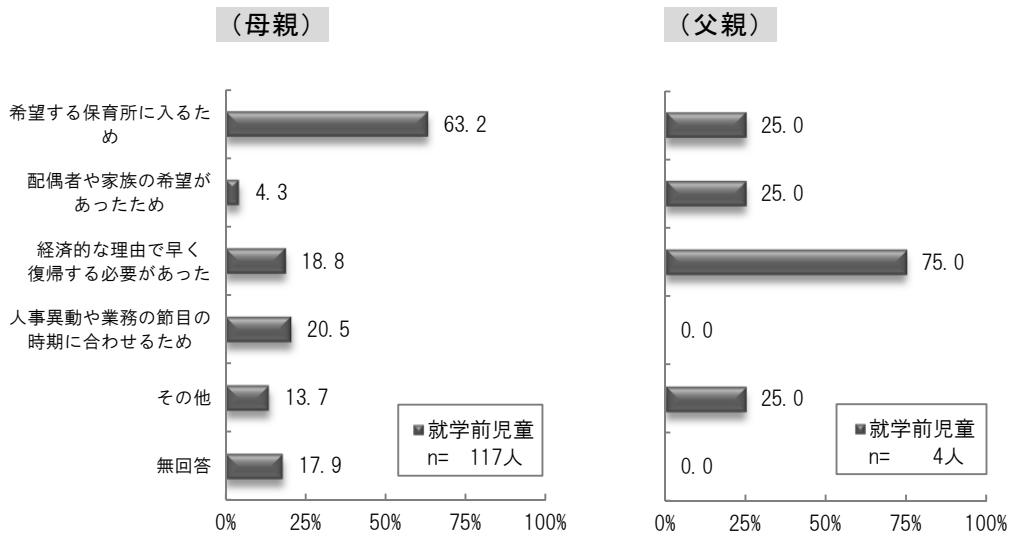
（父親）



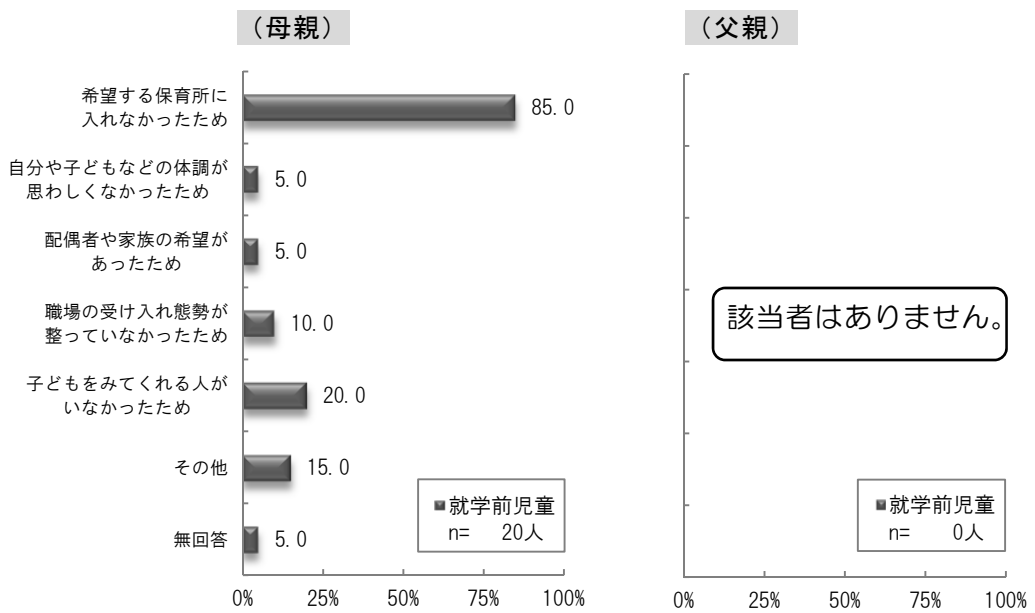
育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入るため」(63.2%)、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(20.5%)、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(18.8%)の順に多くなっています。

一方、育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入れなかったため」(85.0%)が最も多くなっています。

問 30-6(1) 育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由



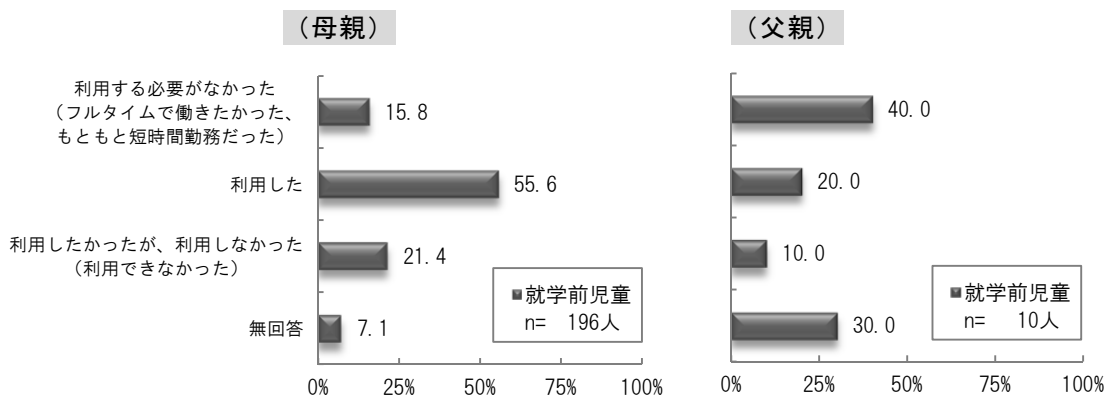
問 30-6(2) 育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由



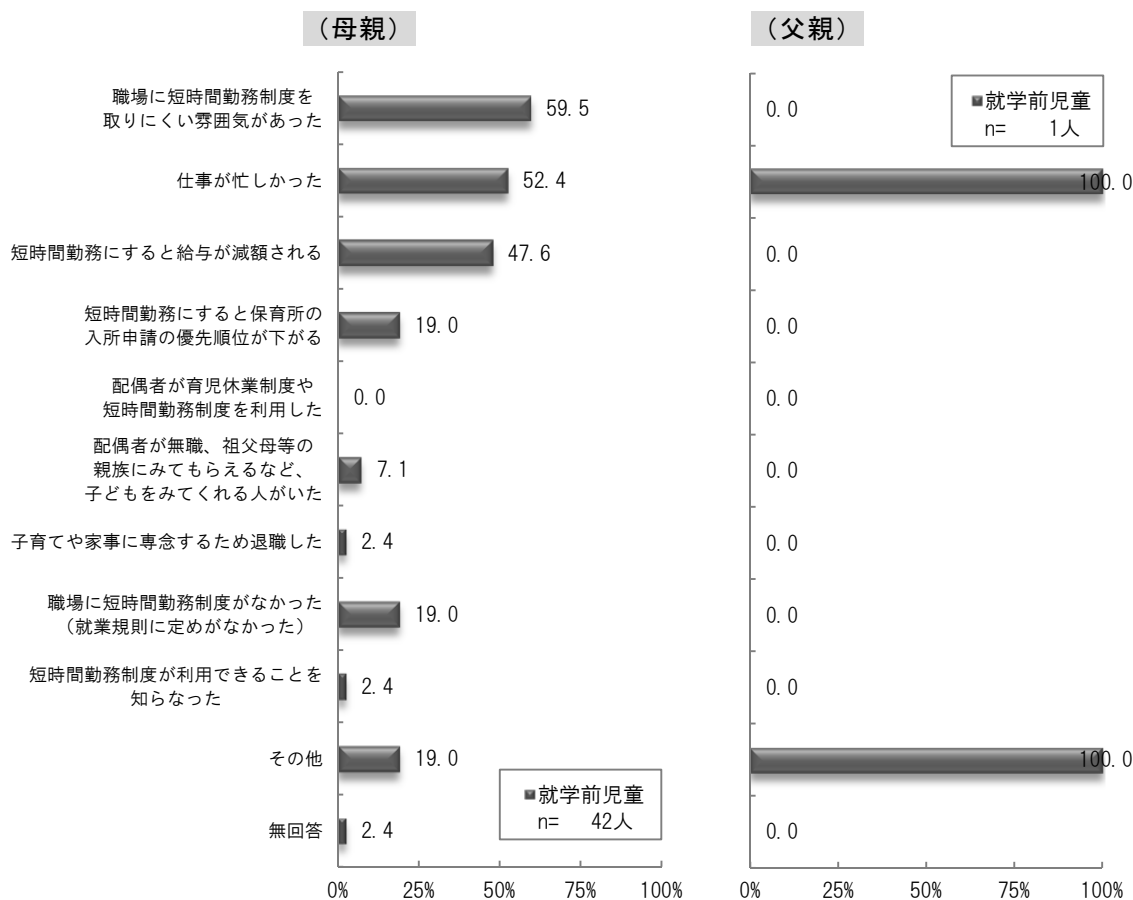
職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親は「利用した」(55.6%) に対して、父親は「利用した」(20.0%) となっています。

職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由をみると、母親は「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」(59.5%)、「仕事が忙しかった」(52.4%)、「短時間勤務にすると給与が減額される」(47.6%) となっています。

問 30-7 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況

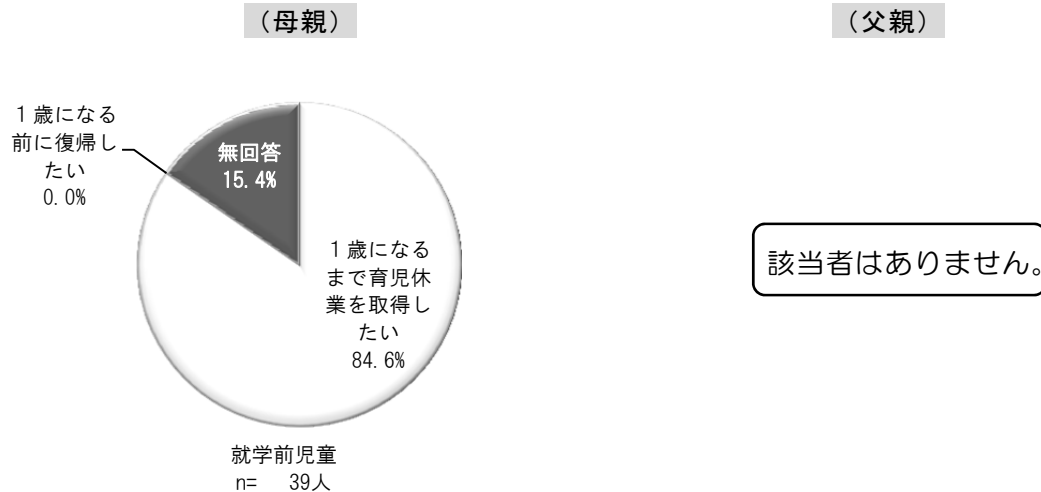


問 30-8 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由



1歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望をみると、母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」(84.6%)となっています。

問 30-9 1歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望



2 地域の子育て支援の環境や支援への満足度

地域の子育て支援の環境や支援に対する満足度の状況について、就学前児童では「普通」と「無回答」を除くと、「満足が高い」と「やや満足が高い」の計が(21.1%)、「満足度がやや低い」と「満足度が低い」の計が39.4%となっています。

一方、小学校児童でも「満足が高い」と「やや満足が高い」の計が19.3%、「満足度がやや低い」と「満足度が低い」の計が34.0%となっています。

問 31[問 14] 地域の子育て支援の環境や支援への満足度の状況

